

2014 年度前期
「教員による授業アンケート」

～調査結果報告～

平成 26 年 11 月

奈良佐保短期大学 自己点検評価室

目 次

基礎教養科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
1	英会話	キャンベル早川久美子	演習	1
2	英語 I	椎野 美知子	演習	2
3	キャリアデザイン	碓 ともみ	講義	3
4	国語表現法	宮川 久美	講義	4
5	人権と差別	馬越 かよ子	講義	5
6	奈良とお茶	黄瀬 邦子	演習	6
7	奈良とお茶	中島 由紀子	演習	7
8	フランス語 I	浅野 友子	演習	8

生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
9	介護過程 I	水野 尚美	講義	9
10	介護予防	中野 正英	講義	10
11	グリーンプランニング I	寺田 孝重	講義	11
12	グリーンプランニング I	前川 良文	講義	12
13	高齢者の心理	森永 夕美	講義	13
14	コミュニケーション演習	小槻 智彩	演習	14
15	コミュニケーション演習	鈴木 千晴	演習	15
16	社会調査法	中田 奈月	講義	16
17	生活経営・管理の技法	北口 照美	講義	17
18	相談援助の基盤と専門職	武田 卓也	講義	18
19	相談援助の理論と方法	小川 和代	講義	19
20	点字・手話(点字)	福田 佳久子	演習	20

生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
21	応用栄養学	三浦 さつき	講義	21
22	食事療法実習	須谷 和子	実習	22
23	食品衛生学	池内 ますみ	講義	23
24	人体の構造と機能 I	毛受 真由美	講義	24
25	調理実習 I	島村 知歩	実習	25

生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
26	イラストレーション	松河 哲男	演習	26
27	経理実務 I	谷村 真理	講義	27
28	日本経済とビジネス	谷村 真理	講義	28
29	プロダクトデザイン I	大倉 清教	演習	29
30	マーケティング	向井 光太郎	講義	30

地域こども学科 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
31	音楽 I	大城 弓恵	演習	31
32	音楽 I	宮田 眞理	演習	32
33	音楽 I	山下 玲子	演習	33
34	音楽Ⅲ	玉井 奈摘	演習	34
35	音楽基礎演習 I	大西 有紀	演習	35
36	音楽基礎演習 I	澤田 博	演習	36
37	音楽基礎演習 I	中島 倍代	演習	37
38	学習・発達論	田中 善大	講義	38
39	教育実習指導 b	増井 啓子	演習	39
40	教職入門	片岡 三和	講義	40
41	教職入門	梶田 萬理子	講義	41
42	算数	重松 敬一	講義	42
43	児童館の機能と運営	唐沢 三代子	講義	43
44	社会的養護内容	山口 直範	演習	44
45	小児保健 A	早川 淳	講義	45
46	小児保健演習	石田 寿子	演習	46
47	小児保健演習	三宅 靖子	演習	47
48	障害児保育	中島 順子	演習	48
49	生活	園部 勝章	講義	49
50	体育	村田 トオル	演習	50
51	保育(健康)	安永 龍子	演習	51
52	保育(人間関係)	石田 裕子	演習	52
53	保育(表現・音楽)	奥田 尚子	演習	53
54	保育(表現・音楽)	本間 晶子	演習	54

専攻科 福祉専攻 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
55	介護に必要な制度と理解	小木曾 真司	講義	55
56	家事支援の技法 I・被服	中村 妙子	演習	56
57	コミュニケーションの基本	松岡 美穂子	演習	57
58	生活支援技術 I	西本 房野	演習	58
59	生活レクリエーション	遠藤 光子	講義	59

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : キャンベル早川久美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英会話 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8325 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 30名 **回答者数** : 27名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	27	-	-	-	-	6	-	21	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.85		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 77.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 29.6%	ほとんど していない 70.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.30		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 14.8%	やや 高かった 51.9%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.74		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 3.7%	注意 していた 55.6%	ある程度 注意 していた 40.7%	あまり 注意し てい なかつ た	全く 注意し てい なかつ た	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.78		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.78		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.60		■				

1 授業の概要、特徴等

テキストEnjoy Speaking を用いて、場面シラバスによる定型表現をベースに、そのための文法知識を補いながら進める。また毎時間の始めには基本英語表現を再確認することを通して、瞬間会話力の構築に努めた。各々が実践的、客観的に音声言語を捉えることを目的に統合的全体発表の機会を中間と最終で2度設けた。

2 アンケート結果に対する見解

授業の回を追う毎に学生もリズムを掴み、ペースも付いてきた。自由記述にもあるように、英会話Ⅰに続く英会話Ⅱという選択肢もあればよいのではないかと。話すことや発音などに自信をもつ学生も多く集まってきていたので、それがより生かせればと考える。ただ総合的な英語表現能力としては英語Ⅰと英会話という二つの方略も実際には重要である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

最終課題としての2人組みオーラル発表では中間期の成績に比較してコミュニケーション能力の向上が見られた。講師のみではなく学生相互間でも客観評価も加えた。成績評価基準は、学生個々により、かなりの実力差がそもそも存在しているので、自己内評価の観点も加え、今後も継続的に学習に興味・関心を維持できるように平常点、態度に比重をおいた。

4 授業改善の方法

学習への積極性、意志力も異なり、英語基礎力にも開きがある。苦手だがもう一度取り組んでみようとする学生に充分配慮しながら、全体として基礎力を上げていきたい。後期は英会話Ⅰに続くⅡの設定がない。従って続く後期に英語Ⅰを選択した学生に対しては、統合的な外国語能力へと繋げて、英語文を論理的に捉える視点を補充していきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 椎野 美知子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英語 I **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8305a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	12	1	-	1	1	-	-	12	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.50		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 7.1%	30分 程度 21.4%	ほとんど していない 71.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 7.1%	30分 程度 21.4%	ほとんど していない 71.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.36		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 35.7%	やや 高かった 35.7%	適切 であった 28.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.50		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 35.7%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 14.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.64		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.07		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00		■				

1 授業の概要、特徴等

概要： 新聞やEメールや広告文から抜粋した短い英文を読んで1. 読解 2. 重要構文の練習 3. モデル文に沿って自分で文を作る 4. 音声に注意して発表する 特徴： 自分で英文を作ってそれを音声表現することで発信能力を養う。

2 アンケート結果に対する見解

幸い少人数のクラスだったので対話形式の授業形態が取れた。 学生は自由に質問したり、意見を交換したり出来た。アンケートにその結果が表れていて良かったとおもう。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生が各回の授業に真剣に取り組んでくれることが一番の目標なので、成績評価には、一回の期末テストで評価することなく、各授業での提出物や発言を重視した。

4 授業改善の方法

発音や発声練習をすると、恥ずかしがってなかなかついて来てくれないので、私の方でつい諦めてしまう事が多い。 しかし、外国語学習では最も重要だと思うので、諦めずに続けたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 碓 ともみ **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : キャリアデザイン **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8190abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 121名 **回答者数** : 105名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	101	1	-	3	13	29	4	55	-	-	4

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均						
		1	2	3	4	5	1	2	3	4
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.05	■						
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 1.0% 90分程度 1.9%	60分程度 1.9%	30分程度 14.3%	ほとんどしていない 80.0%	無回答 1.0%			
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 1.9%	90分程度 3.8%	60分程度 3.8%	30分程度 19.0%	ほとんどしていない 71.4%	無回答 -		
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.97	■						
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 6.7% やや高かった 20.0%	適当であった 69.5%	やや低かった 1.9%	非常に低かった 1.9%	無回答 -			
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.10	■						
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 11.4% 注意していた 49.5%	ある程度注意していた 38.1%	あまり注意していませんでした 1.0%	全く注意していませんでした -	無回答 -			
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.90	■						
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.04	■						
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.45	■						

1 授業の概要、特徴等

大人として大切である「社会人基礎力とコミュニケーション力」を実践的に教える。人間関係の構築から他者に自分を伝える力を養い、社会とは、人との関わりとは、を正しい常識とともに伝えていく。その中で自身のキャリア(人生・仕事)の在り方について考え、今、自分が思うことを声に出して発言していく「自分を表現する」ことを意識させた。授業は生徒のパフォーマンスを中心に考えており、出来る限り全員参加して頂くとともに、実際に全員の前で発言したことに対しても、個別でコメントを伝える対話型授業を展開する。毎回、席替えをすることによって、誰とでも話し合いが出来る様に工夫した。また、今年度からPBL学習法を取り入れ、チームで課題解決学習を試み、チーム力育成にも力を注いだ。

2 アンケート結果に対する見解

内容を分かりやすく、学生が興味を示し参加しやすい身近な題材を授業に取り入れたため、比較的評判が良かった様に思える。対話をしながらの授業と質問に対して「分かりません」と言う言葉をなくし、どの様なことでも「自分の意見」を言わせたことで生徒も安心して返答できたのではないのでしょうか。授業中の私語について注意をしていたが、やはり気になった学生がいたことで、次回の課題とした。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

初めの授業では、人前に立って自分の意見を言うことに慣れていなかったが、徐々に慣れてき始め、自ら意見を述べることを望む生徒が増えてきて、人前で自分の話を出来る様になり、ほとんどの生徒が目標達成出来たのではないかと感じる。また、ワークショップを多く取り入れ、プレゼンテーションをすることによって、主体性とコミュニケーション力が養われたと評価する。成績評価は出席率を重視しそれを基準に考えた。出席率100%の学生も少なくなく、授業の興味を示してくれたものだとして評価する。また、論述試験に関してほとんどの学生が指示通りの書き方をしており、高得点を得たが、やはり出席率が芳しくない学生は、論述試験でも思い通りに書くことが出来なかった。追再試験を経て、全員単位認定をした(欠席率等で単位認定条件に満たない学生を除く)。

4 授業改善の方法

今年度からPBLの取組みを試みた。課題をチームで考え、創意工夫しながらひとつの事を取り組むことに学生らは大変興味を持っていた。初年度は、身近なテーマからの考察であったが、今回は少し複雑なテーマからのPBLを行いたい。また、外部各種の勉強会(経済産業省:社会人基礎力、キャリアデザイン学会、キャリア理論など)に参加し、より社会が求めているものの把握をしていきたいと考える。学生は自己や他者を知ることが難しいということが「振り返りシート」などから知り得たので、キャリア理論の手法(ナラティブ、アサクション等)を取り入れ、キャリアデザインが自らできる体制づくりを授業の中に取り入れていきたいと考える。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 宮川 久美 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 国語表現法 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8110abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 76名 **回答者数** : 72名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	68	3	-	1	-	1	-	70	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.11		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 5.6%	30分 程度 30.6%	ほとんど していない 63.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.4%	90分 程度 -	60分 程度 5.6%	30分 程度 31.9%	ほとんど していない 61.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.43		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 15.3%	やや 高かった 26.4%	適切 であった 56.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 1.4%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.42		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 9.7%	注意 していた 77.8%	ある程度 注意 していた 12.5%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.29		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.14		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.44		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

日常の言語表現(口頭表現および文章表現)において、自分の考えをまとめ、聞き手に伝わるように表現できるようになることを目指している。規範意識を持ち、聞き手を尊重した表現を身につけるよう、ワークを行い、その都度不適切な表現を是正し、自然に正しい読み書き、口頭表現が身につくように工夫している。

2 アンケート結果に対する見解

多少は予習復習もしたようで、ほぼまじめに授業に取り組んだと思われる。楽しかった、わかりやすかった、という自由記述が多く、授業のレベルも適切だったとする人が約57%で、まずまずの数字かと思われる。しかし、非常に高かった、やや高かったとする人が、計42%もあり、理解度を見ながら個別にも説明するなど工夫をしたが、今後さらに検討の余地がある。私語についてはでききる限り注意したが、授業が中断するので注意にも限界がある。学生諸君の自覚を望む。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

繰り返しワークをし、提出してもらったものを添削して返却し、小テストを行い、それも添削して返却しているが、なかなか、完璧なところまでは到達しない。5回の小テストで60パーセント以上正答すれば、単位認定した。

4 授業改善の方法

できるだけわかりやすく、例を挙げて説明する。説明したことは直ちに実際にワークなり、ロールプレイ等でやってみて身につけさせるようにする。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 馬越 かよ子 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 人権と差別 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8105ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 61名 **回答者数** : 50名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	37	13	-	-	8	33	3	4	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.16		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 4.0%	30分 程度 8.0%	ほとんど していない 88.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 2.0%	90分 程度 8.0%	60分 程度 4.0%	30分 程度 10.0%	ほとんど していない 76.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.28		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 6.0%	やや 高かった 32.0%	適切 であった 58.0%	やや 低かった 4.0%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.26		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 20.0%	注意 していた 58.0%	ある程度 注意 していた 18.0%	あまり 注意して いなかった 2.0%	全く 注意して いなかった 2.0%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.30		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.20		■				

1 授業の概要、特徴等

差別を生み出すメカニズムについて、「普遍的な視点」や「個別的な視点」の両方からアプローチし、人権問題に対する正しい理解と認識を深める。授業の終了時にその日の授業内容と授業を通して気づいたことなどについてコミュニケーションカードを提出させ、次回に各人の提出内容を整理配付して、他者の考えを知り視野を広げさせる。また、学んだことの集大成として、グループディスカッションにより人権メッセージを作成・発表してクラスメートの評価を受ける。

2 アンケート結果に対する見解

事前事後レッスンについては、人権や差別の観点から、常に国内外のニュース等に関心を持ちメモするように指導しており、レポート等に反映されていると思われる。人権尊重という当たり前の課題について、個別的な視点をもとに関心を深めて問題意識を持ち、自分の課題として考え、普遍的な視点へと人権意識の高揚を図る姿勢が培われていると思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

人権や人権問題に対する認識を深めるとともに「全ての人間の尊厳」を実現する方向に人権感覚や意識の高揚を継続的に図るため、自分自身や社会がどのようにしたらいいかを考察する力を身につけて実践的な行動に踏み出させることを目標とし、自ら「気づき」「考え」「行動する」ことを評価基準とする。受講態度や指定課題の提出30%、科目修了レポート及び人権メッセージ発表に対する他者評価等70%により総合的に判断して単位認定する。

4 授業改善の方法

学生の大半は、授業により新しい知識を得て問題意識や関心が高まったとしているが、残りの学生に対して、人権や差別について自分自身の課題であると認識させるために発表の機会を増やすなどの工夫が必要であると考えている。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 黄瀬 邦子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 奈良とお茶 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8116 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 23名 **回答者数** : 19名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	19	-	-	-	6	-	-	13	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.05		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 10.5%	30分 程度 21.1%	ほとんど していない 68.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 10.5%	30分 程度 21.1%	ほとんど していない 68.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.68		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 5.3%	やや 高かった 36.8%	適切 であった 52.6%	やや 低かった -	非常に 低かった 5.3%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.42		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意する 必要は なかった 15.8%	注意 していた 5.3%	ある程度 注意 していた 63.2%	あまり 注意して いなかった 5.3%	全く 注意して いなかった 10.5%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	-	3.53		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.68		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.68		■				

1 授業の概要、特徴等

○「奈良とお茶」の授業目的は、奈良で学ぶ学生として社会人になった際お茶に関する教養を身につけることとし、授業の概要は15回の授業を4名の担当教員が分担した。前半は奈良とお茶に関する特産物や歴史について、後半は茶道体験と煎茶体験とまめのお茶会を実施した。○授業の特徴は4名の担当教員が数回の打合せ会議を開催し授業目的と内容について共通認識を共有し授業に取り組んだこと、また体験学習として煎茶の淹れ方や茶道体験を行った。

2 アンケート結果に対する見解

○受講の学生数23名に対しアンケート回答者数19名であり4名の提出のないのは何故で理由はあるのでしょうか。○アンケートの結果は、大学全体平均と「奈良とお茶」の授業評価を比較すると、評価項目のうち、授業態度以外の項目すべての評価は低くなっている。回答選択肢の評価「どちらともいえない」「ある程度」「そう思う」の割合が低く評価されており、授業の進め方について工夫が必要と感じました

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

○「奈良とお茶」の各授業に係る試験結果は、すべての学生の評価は65点以上となった。○試験は全体では3回実施した。私の授業内容の茶道体験については体験の習得目標に係る設問をおこない実施した。

4 授業改善の方法

○体験学習は体験内容の工夫が必要と思われました。今回初めての授業担当でもあり、綿密な授業計画をたて、助手と相談の上、時間配分、役割分担をして授業をおこなった。受講後の学生の評価に「わからなかった」「もっと教えてほしかった」という評価があったことから、体験内容のポイントを絞って学生の理解の程度を確認しながら授業を進めるよう改善したい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 中島 由紀子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 奈良とお茶 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8116 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 23名 **回答者数** : 19名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	19	-	-	-	6	-	-	13	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.05		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 10.5%	30分 程度 21.1%	ほとんど していない 68.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 10.5%	30分 程度 21.1%	ほとんど していない 68.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.68		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 5.3%	やや 高かった 36.8%	適切 であった 52.6%	やや 低かった -	非常に 低かった 5.3%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.42		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 15.8%	注意 していた 5.3%	ある程度 注意 していた 63.2%	あまり 注意して いなかった 5.3%	全く 注意して いなかった 10.5%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.53		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	3.68		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.68		■				

1 授業の概要、特徴等

奈良とお茶の科目は、主に奈良県で生産されるお茶とその文化について学ぶ科であった。講師数名とテーマも分割されていたが、事前の打ち合わせ等で主題である「奈良とお茶」を様々な角度や立場から知る事のできる良い講座であったと思う。生徒は座学では集中力の差がみうけられたが、実習では全体的に意欲的であった。座学で得た知識と実習とがうまく連携できなかったのが心残りである。実習では奈良とお茶を体感できた。

2 アンケート結果に対する見解

⑩この授業は自分の将来に役立つと思いましたが、について、どちらとも言えないが42.1%、全く思わないが5.3%である事で、結局半数の生徒は、もともと飲料=食についての関心が薄いのではないかと感じる。しかし、⑨この授業を受けて新しい知識や技術が得られ、問題意識や関心が高くなりましたか、に対して、ある程度思う以上が77.6%である事から、奈良とお茶に対して確実に知識もスキルも興味も高まる授業であったと言える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価及び単位認定には関与していない。授業の目標達成については、2の見解と重複するが、生徒の学習意欲の有無に関わらず、この授業を受ける事で奈良とお茶の新しい知識や技術が得られ、問題意識や関心が7割以上の学生で高まった。7割以上の目標達成を得られたと感ずる。

4 授業改善の方法

生徒は主に実習に興味を示し、経験する事で奈良とお茶に対して関心が高まるようであった。もともと関心の薄いこの科に関して、先に実習をする事で学習意欲を高めてから座学を始める方が吸収力の良いのではないかと感じる。また、一人一人に急須を持たせて自分自身の責任と自由でお茶と淹れたり、茶道で各自もてなす側とお客様の役を果たす等、個人に責任を持たせた場合に生徒が生き生きとしていた。このような場を増やしたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 浅野 友子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : フランス語 I **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8330 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 23名 **回答者数** : 22名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	20	2	-	-	-	2	-	20	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.82		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 9.1%	30分 程度 9.1%	ほとんど していない 81.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 9.1%	30分 程度 18.2%	ほとんど していない 72.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.77		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 36.4%	やや 高かった 18.2%	適切 であった 40.9%	やや 低かった -	非常に 低かった 4.5%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.68		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 13.6%	注意 していた 36.4%	ある程度 注意 していた 50.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.50		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.20		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	2.85		■				

1 授業の概要、特徴等

初学者の対象とし、フランス語の簡単な表現を練習しつつ、初級文法を学習する。教科書を使用し、概ね教科書に沿って授業を進めるが、学生の興味・関心を見て、別にプリント等を活用することもある。教科書はできるだけ例文の多いものを選ぶよう心がけ、意味を運ぶものとしての文の成り立ちを理解し、各自が言葉について今までよりも深く意識してくれるよう努力している。

2 アンケート結果に対する見解

教科書に添付されているCDを聞くよう促す以外に自宅での課題は課していないので、授業時間以外の勉強時間が少ないのは仕方のないことと考える。今年度の教科書は習っていない構文や単語が練習問題に使われている場合があり、その度に説明が長くなって、わかりにくいと感じた学生がいたことは理解できるし、これからの反省点としたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価は、授業中に課す課題・提出物、筆記試験の結果を総合して行う。教科書で学んだ文の形を応用して自分の言いたいことが表現できるかが、評価の基準となる。例文のどこをどう変えれば自分の言いたいことに近づくかを考えることは、言葉の意味について深く考え、言葉を大切にすることにつながると考えるので、試験等課題は、フランス語作文を主な内容としている。

4 授業改善の方法

学生にとって将来の職業に直結するわけでもないフランス語の授業においては、学生の興味・関心を維持・向上させることが何より大事である。そのためには、知らない言語を学んで理解していくこと自体の素晴らしさ・面白さを何とか伝えていきたいと思う。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 水野 尚美 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 介護過程 I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1405 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	13	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.92		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 23.1%	30分 程度 30.8%	ほとんど していない 46.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 15.4%	30分 程度 69.2%	ほとんど していない 15.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.08		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 7.7%	やや 高かった 46.2%	適切 であった 46.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.54		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 53.8%	ある程度 注意 していた 46.2%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.31		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.54		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.38		■				

1 授業の概要、特徴等

介護福祉士が支援を提供する際の根幹となる思考過程である介護過程の意義と目的を理解し、その展開方法を修得していく科目である。講義中心ではなく、演習と並行させ、事例を用いたグループ討議や発表など学生参加型授業が主となる。

2 アンケート結果に対する見解

介護に対する知識が乏しく、また、介護現場の体験もない前期での開講のため、学生自身の体験に合わせた説明をしたつもりだが、「課題をやってもよくわからなかった」という自由記述や評価項目の⑥⑧が定値であったことから考えると、学生にとってはかなり難しい授業であったと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

介護過程の意義・目的・全体像の理解を判断するための筆記試験を実施した。成績評価としては、学生参加型授業を中心としたため、日常点も加味した。学生各自の学習への取り組み姿勢や能力に差が大きく、数名が再試験の受験対象となった。

4 授業改善の方法

開講時期から考えて、言葉や用語の説明にもう少し時間をかけることや学生がイメージしやすい事例を活用すること、全体像のどの部分の学習に取り掛かっているのか、それが理解できているのかを、もう少し細分化し振り返ることを工夫したい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 中野 正英 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 介護予防 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1225 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	15	-	1	14	-	-	-	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.81		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 25.0%	ほとんど していない	75.0%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 43.8%	ほとんど していない	56.3%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.19		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 37.5%	適切 であった 62.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.25		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 6.3%	注意 していた 68.8%	ある程度 注意 していた 18.8%	あまり 注意して いなかった 6.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.88		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.75		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.06		■				

1 授業の概要、特徴等

本授業は介護予防の知識を習得し理解を深めるために、介護保険法および介護保険法改正の背景についての説明を行い、介護予防事業の内容について毎回パワーポイントを使用して授業を行った。運動器機能向上事業を中心に、栄養改善、口腔機能向上など地方自治体で開催されている事例をあげながら実施手順や成果などを紹介した。また運動指導をするにあたり、必要となる身体活動の基礎知識や高齢者の身体特性についても解説し、簡単な運動実技も指導した。

2 アンケート結果に対する見解

授業内容は介護福祉士取得という目標をもった受講生には興味もわき、理解しやすかったと考える。受講態度の項目の結果は、テキストを指定せず、特に課題を与えなかったことによると考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の到達目標は介護予防についての制度および内容を利用者の視点から理解することと介護予防について制度的背景と実態について理解することであった。成績評価は、出席を含む授業態度(40%)、レポート(20%)と期末の筆記試験(40%)をもとに100点満点で評価した。単位認定については60点以上を合格として単位認定した。

4 授業改善の方法

介護保険法や改正介護保険法など介護予防を知る上で理解しておく必要のある内容についてはより深く解説する。また運動体験は暑かったため机を端に片付けて教室で行ったが、もう少し回数を増やし実践法や指導法も教授したいと考える。これまでは受講生に社会人が約半数いたため、理解度もかなり深い内容もあったが、いわゆる現役生だけの受講生には、イメージもわきづらい内容も多くあったと考えられ、今後はさらに掘り下げた内容にする必要があると考える。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 寺田 孝重 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : グリーンプランニング I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1610 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 21名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	2	-	-	14	-	-	2	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.63		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 31.3%	ほとんど していない 68.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 31.3%	ほとんど していない 68.8%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.94		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 18.8%	適切 であった 68.8%	やや 低かった 12.5%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.94		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 12.5%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 31.3%	あまり 注意して いなかった 6.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.81		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.63		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00		■				

1 授業の概要、特徴等

園芸福祉と植物対応の基礎知識を習得させるとともに、植物への親しみを進める。また、実習園において植物を実際に育て、実地体験を通して興味を高めて行く。毎回圃場の様子に関するレポートを課し、出席点とする。毎回、その週に見た植物の報告と質問提出を行なった。

2 アンケート結果に対する見解

今回の学生は、あまりリーダーとなる人がおらず、興味も高くはないように見られたが、実習後半には、水やり除草を行なう人もあった。最後の収穫には盛り上がりを感じた。アンケートにもその辺りが反映されていると思われた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

今までになかった事であるが、途中落後者(現実に途中まで出席しながら、何かの理由で来なくなった人)があり、非常勤で様子が分からず困惑した。また、2回生主体となった班では、班活動が困難となった。単位構成については、指導をしたが、複数講師のシステムがなかなか理解されにくかった。レポート主体方式は理解されたと思う。

4 授業改善の方法

今回のように、落後者があると班主体の活動部分で困難性が認められ、今後の課題となる。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 前川 良文 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : グリーンプランニング I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1610 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 21名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	2	-	-	14	-	-	2	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.63	■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度 - -	60分程度 -	30分程度 31.3%	ほとんど していない 68.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度 - -	60分程度 -	30分程度 31.3%	ほとんど していない 68.8%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.94	■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に 高かった -	やや 高かった 18.8%	適切 であった 68.8%	やや 低かった 12.5%	非常に 低かった -	無回答 -
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.94	■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 12.5%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 31.3%	あまり 注意して いなかった 6.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.81	■ ◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.63	■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00	■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

福祉と園芸を学び、人々に対する効果など素晴らしい魅力と草花や野菜など、植物の栽培管理をとおして多くの人々が心の安らぎや健康、生きがいを感じる園芸の特質を人々の生活の質を高める為の実習等を行い、障がい者や高齢者などの介護やリハビリのために積極的に活用する園芸療法や園芸福祉を具体的に学ぶとともに、福祉社会のニーズに応える産業人を育成し、農園芸分野における障がい者就労支援についても知識と理解を得る

2 アンケート結果に対する見解

受講態度については良かった。内容については理解レベルの差が有りだったので毎回授業終了前10分程度のレポート提出で理解度を確認し次回に反映した。進め方については寺田先生の授業の進捗状況を学生に報告確認しながら学生が混乱しないように進めた。園芸福祉に興味を持っている学生も多く、もっと時間数を増やし深く伝えていきたいので時間数を増やす事を希望。総合評価で高い評価を得る努力をしていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度 20% 表能力 20% 筆記試験、レポート60% 事前学習が出来るような環境と流れを作りたい。

4 授業改善の方法

昨年も授業改善の方法については提案しましたが担当講師二人なので前期、後期にした方が学生たちにも理解しやすいかと思えます。講師はお互いに授業カリキュラムの調整ができていますが学生には伝わりにくいように思われるので検討が必要。講師として学生に伝えたいことは相手を尊敬し信頼する社会人としての基本的マナーや身構え、心構えなどをしっかり持った人材教育とコミュニケーション力を身につける様にする為、事例やワークショップを行い、伝達者でない自分の言葉と熱意で講義を行う。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 森永 夕美 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 高齢者の心理 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1510 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	13	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.92		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 15.4%	30分 程度 30.8%	ほとんど していない 53.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 7.7%	90分 程度 -	60分 程度 15.4%	30分 程度 61.5%	ほとんど していない 15.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.31		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 7.7%	やや 高かった 30.8%	適切 であった 61.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.38		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 7.7%	注意 していた 61.5%	ある程度 注意 していた 23.1%	あまり 注意して いなかった 7.7%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.92		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.77		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.54		■				

1 授業の概要、特徴等

加齢による心身の変化とそれに伴う老いの自覚について、授業だけでなく老人体験や文献・DVD映像などから学び理解する。講義だけでなく、グループワークで認知症について調べ発表したり、回想法や音楽療法などを実際に体験するなど、今後の実習にも役立つものも取り入れた内容になっている。

2 アンケート結果に対する見解

課題等で事後学習は行っているが、予習に関して半数以上がほとんどしていない状況があり、そのことで授業についていけなかったり、理解度も低くなると考える。事前にテキスト等読んでおき、授業で学習を深める取り組みが必要と考える。文献レポートのパソコン作成については、1回生にはボールペン字に慣れ文字を丁寧に書く指導を含め手書きで行っている。変更の予定はない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標に関しては達成できたと考える。特に介護福祉士としての援助の在り方に関しては、文献レポート等からもよく考えられていた。成績評価基準と単位認定もこのままでよいと考える。

4 授業改善の方法

心理学系の専門用語も出てくるため、基本的な用語の理解等事前学習を取り入れ、学生の理解度を深めていく。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 小槻 智彩 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : コミュニケーション演習 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1105a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 29名 **回答者数** : 23名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	17	5	1	-	14	-	5	4	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.91		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 4.3%	30分程度 17.4%	ほとんど していない 78.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 4.3%	30分程度 17.4%	ほとんど していない 78.3%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.96		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 4.3%	やや高かった 17.4%	適切であった 78.3%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する必要はなかった	注意する必要はなかった 21.7%	注意していた 39.1%	ある程度注意していた 21.7%	あまり注意していません 8.7%	全く注意していません 8.7%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.91		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.91		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00		■				

1 授業の概要、特徴等

コミュニケーションの力を向上させ、日常生活の中で活用できるようになることを目標に、主に心理学領域での関連知識を踏まえながら授業を行った。授業の特徴は、毎回異なるメンバーでのグループ分けを行い、ワークを通して知識の理解を深めながら、他者とコミュニケーションをとる機会を多くとった実践的な演習であったことである。さらに、別の教員が担当している同一授業科目のクラスとの合同授業を複数回行い、初対面の相手と接する場を設けた。

2 アンケート結果に対する見解

授業の性質上、授業内での実践を重視していたため、事前・事後学習の時間が全体平均や科目群平均と比較して少なくなっていた。コミュニケーションについては個人差が大きいものであり、集団授業で個別のレベルに合わせることは難しいが、内容を多様なものにする事で、全体的なレベルとして大半の学生にとって適切なものではなかったのではないかと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

試験問題に対する回答から、学生のコミュニケーションについての考え方や新たな問題意識を促すことが出来ていたが、活用という目標達成については個人差があるようであった。授業への参加態度を重視し、毎回の感想や、自分の考えを記述する試験の回答を成績評価基準として単位認定を行ったが、それぞれの学生の取り組みを反映させることができたので妥当な基準と単位認定であった。

4 授業改善の方法

コミュニケーションについての知識や問題意識だけでなく、日常生活での活用という目標を達成するために、授業内だけの実践ではなく、事前・事後学習という形での課題を増やしていく。また自由記述で、「班分けが多かった」と「他の学科・コースの人と交流できた」という両方の意見があるため、個人作業とグループ作業による交流のバランスを考えた改善を行う。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 鈴木 千晴 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : コミュニケーション演習 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1105b **授業形態** : 演習 **受講者数** : 37名 **回答者数** : 26名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	25	1	-	-	-	25	-	1	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.12		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 3.8%	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない	96.2%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 3.8%	30分 程度 3.8%	ほとんど していない	92.3%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.85		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 30.8%	適切 であった 61.5%	やや 低かった 7.7%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.77		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 15.4%	注意 していた 34.6%	ある程度 注意 していた 23.1%	あまり 注意して いなかった 26.9%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.84		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.65		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.69		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

コミュニケーション演習は、2クラスに分かれてコミュニケーションの技術をのばすことを目的に様々なグループワークを行った。基本的には班ごとにいくつかのワークを行い、授業の最後にそれを通じてコミュニケーションについて考えさせた。生活未来科の生徒が大半だったが、学科やコースをまたがって学生同士の交流を促進することも目的であったため、しばしば2クラスで合同授業を行った。

2 アンケート結果に対する見解

授業は必修であったこともあって、学生の意欲には差があった。特にコミュニケーションを目的としたワークであったため、交流を苦手とする学生には苦痛である面もあったと思われる。そのような学生に配慮しつつ、意欲のある学生にも充実した内容にできるよう工夫したつもりだったが、結果的に学生の評価が分かれたように思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

クラス内の交流は、深まったと考える学生が多かったようだった。もう一方のクラス他コースの学生とも話ができるようになった、という学生も多かった。成績評価については、毎回授業の終わりに書かせた感想と、最終回のレポートの通じて行った。授業中のワークに意欲的に取り組んでいた学生はコミュニケーションについても考えが深まっていた為、それにもとづいて評価を行った。

4 授業改善の方法

意欲に差がある学生が全員参加しやすく、しかも充実した内容にするにはさらなる工夫が必要であると思われる。ワークの手順をより分かりやすく、かつ狙いを明確に説明する必要はあると思われる。また、コミュニケーションについて考えるということに、全体的に動機づけを高める必要もある。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 中田 奈月 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 社会調査法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1700 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 3名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	3	-	-	1	-	-	2	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.67		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 66.7%	やや 高かった -	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	-	3.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった -	注意 していた 100.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	2.67		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.33		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.67		■				

1 授業の概要、特徴等

2 アンケート結果に対する見解

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 北口 照美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 生活経営・管理の技法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1320 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学 年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	15	-	-	15	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.87		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 20.0%	30分 程度 26.7%	ほとんど していない 53.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	-	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 13.3%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 53.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.07		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 40.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.80		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 6.7%	注意 していた 66.7%	ある程度 注意 していた 26.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.73		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.73		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.07		■				

1 授業の概要、特徴等

2 アンケート結果に対する見解

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 武田 卓也 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 相談援助の基盤と専門職 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1705 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	2	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.67		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	◇
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	◇
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	◇
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.50		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	◇
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.83		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.17		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.33		■				

1 授業の概要、特徴等

本授業は相談援助の基本的知識を得る科目であり、学生が初めて知る言葉が多く出てくる科目である。その為、教科書にそって、パワーポイントを使いながら視覚的に見える形で授業展開をしてきた。また、時にソーシャルワーカーにとって重要な価値観等の理解を促進するためにワークを用いながら体験的に授業を展開する工夫もした。

2 アンケート結果に対する見解

アンケート結果の課題は2点ある。1点は授業前後の課題である。もう1点は学生の勉強しやすい雰囲気づくりへの貢献である。前者については事前学習を促し、小テストを実施するなど学生が学習するように努めたが不十分であった。後者は、私見では全体に配慮しながら学生が勉強しやすいように会話をしながら授業を進めたつもりであったが、学生視点から見ると不十分であった。学生が自ら授業に参加できるように努めたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標については、ある程度達成したと考えているが、学生の自己覚知についてももう少し授業の工夫が必要であったと考える。成績評価基準は、最初にシラバスをもとに説明し総合的な評価で単位認定を行った。総合的に単位認定することで、学生の日々の学びにつながったと考えている。しかし、もう少し小テストを行い日々学習の到達点を確認しながら授業展開をしてもよいと考えている。

4 授業改善の方法

授業改善については、第1に授業前後の学習時間を増やし学生の知識量を増やすことである。そのためには、授業終了後に定期的に課題を課す。また、小テストを定期的実施し授業前後に学ぶ環境を整えたい。第2に学生個々が勉強しやすい雰囲気づくりに貢献できるように、参加型の授業展開を工夫し、学生個々が興味を持ち主体的に授業に取り組める工夫を行いたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 小川 和代 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 相談援助の理論と方法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1710 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	2.80		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	3	3.20		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 40.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.40		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 60.0%	ある程度 注意 していた 40.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.40		■ ◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.40		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

基本的に授業計画の内容にそって、学生主体の参加型学習をすすめる。そのため、事例を活用し、学生自身が実感を持って理解できるよう努めた。到達目標としては、相談援助の基本となる理論を理解し、利用者と利用者をとりまく環境について社会福祉士としての支援方法を身につける。また、本講義で学んだ理論や方法を実習や演習の場で活用できるよう、継続的な学びの土台作りをすることにおいた。

2 アンケート結果に対する見解

既に出来上がっている学生同士の雰囲気を改善することができなかったことが、学生の学ぶ意欲を十分に引き出せなかったことに繋がったのではないかと感じる。保育の現場におけるソーシャルワークについて事例を通して授業を進めた点については、単なる知識としてではなく、学生の関心と理解に繋がったと感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

相談援助の基本となる理論を理解し、支援方法を身につけるという到達目標に対しては、援助過程の展開を理解することはできた。しかし、実際の支援として活用するには不十分な理解に終わった学生もいた。評価については、試験の結果と合わせて(70%)、出席や授業時の演習への参加などの取り組む姿勢(30%)を対象とした。結果、受講者全員の単位取得を認めた。

4 授業改善の方法

今回の課題としては、①学生間での雰囲気を白紙にすること、②事例等を活用した授業により、学習意欲を高めることであると感じた。そのため、グループワークなどを一層活用し、学生が主体的に授業に取り組む場面を多くすることが必要であると考えている。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 福田 佳久子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 点字・手話(点字) **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1255 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	16	-	-	13	-	-	-	-	-	3

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■ ◆					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 6.3%	60分 程度 18.8%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 12.5%	60分 程度 12.5%	30分 程度 43.8%	ほとんど していない 31.3%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.94		■ ◆					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 18.8%	やや 高かった 37.5%	適切 であった 43.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■ ◆					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 12.5%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 37.5%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.25		■ ◆					
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.94		■ ◆					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	3	4.13		■ ◆					

1 授業の概要、特徴等

点字の読み書きができるようになることがこの授業の目標である。ただ、日本語の点字のルールは大変複雑で難しいため、短期間ですべてを習得することは不可能である。従って、テキストに沿って、点字の五十音を覚え、大まかなルールを理解し、簡単な点字の文を読んだり、点字の手紙を書いたりする、基本技術の習得をクラスでの目標としている。

2 アンケート結果に対する見解

授業開始後、2、3回目でのアンケートだったため、どれくらい反映されているか分からないが、昨年と比べて、より、授業内容を理解してもらえたと思う。レベルが「非常に高かった」が減って、「適切であった」が増えていることは良かったと思う。1週間当たり、1時間程度かかる課題を出していたが、授業後の平均取り組み時間が少ない学生が多いことが気になった。内容を工夫する必要があるかも知れない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

レベル的には「やや高い」から「適切」の人数が多かったので、このレベルを維持しつつ、授業を進めたい。また、質問や発言をして積極的に授業に参加していたのは半数くらいだったので、更に授業内容を考え、クラス全員が質問や発言する雰囲気作りをしたい。課題の出し方を工夫し、もう少し丁寧に取り組んでくれるようにしたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 三浦 さつき **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 応用栄養学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2175 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 45名 **回答者数** : 38名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	38	-	-	-	38	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.87		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 5.3%	60分 程度 7.9%	30分 程度 21.1%	ほとんど していない	65.8%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.6%	90分 程度 7.9%	60分 程度 7.9%	30分 程度 23.7%	ほとんど していない	57.9%	無回答 -
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.55		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 34.2%	適切 であった 65.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.45		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 7.9%	注意 していた 71.1%	ある程度 注意 していた 21.1%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.11		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.08		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.68		■				

1 授業の概要、特徴等

栄養士養成のための2回生の必修科目である。妊娠期・乳児期から高齢期にいたるまでの各ライフステージ別の特徴や栄養についての内容であり、写真なども多用してスライドでイメージを膨らませながら理解できるように配慮している。学生によっては、スライドの内容を写すことに精いっぱいになる学生もいるので、特に要点を絞って書けるように穴埋め式のプリントを配布して授業を進めるようにした。次回の冒頭で前回のスライドを見せながら復習し、反復して理解が深まるようにしている。今期の公開授業は、この授業を公開した(5月12日)。

2 アンケート結果に対する見解

プリントを配布していることもあり、「④教科書、プリント、視聴覚教材は授業の理解に役立ちましたか」の設問に対しては、「そう思う」の割合が多く、60.5%であった。前回配布したプリントを忘れて紛失する学生がおり、授業の理解のためにテキストと合わせてプリントも忘れず持参することを徹底したいと思う。「⑩この授業は自分の将来に役立つと思いましたか」の回答も「そう思う」の割合が71.1%にもなっており、妊娠期や高齢期など、家族や学生自身の将来にとって役立つような実用性の高い内容が多いためと考えている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度に加えて、課題プリントの提出、期末テストの成績などにより、総合的な評価をしている。期末テストでは、栄養士として実務につく上で必要な知識が身についたかどうかを筆記試験により確認している。各授業の冒頭で復習の時間をとったり、期末テストの直前に課題プリントを配布したりしたこともあり、期末テストでは論述式の問題が多かったものの、多くの学生が基準に達していたと判断でき、単位を認定した。

4 授業改善の方法

参考用に見せるだけの配布プリントにのせていないスライドもあり、希望者には授業終了後に個別に見せるなど配慮しているつもりであるが、「プリントにないスライドは時間がほしい」という意見があり、今後はスライドを変えるタイミングなどに気を付けたいと思う。毎回、課題を課していることはないためか、事前・事後学習については、「ほとんどしていない」の回答が6割近くあり、今後は学習内容の習得のために、予習復習を呼び掛けたいと思う。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 須谷 和子 **職名** : 講師 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食事療法実習 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2195 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 41名 **回答者数** : 34名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	34	-	-	-	34	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.97		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 2.9%	60分 程度 2.9%	30分 程度 5.9%	ほとんど していない 88.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 2.9%	90分 程度 2.9%	60分 程度 8.8%	30分 程度 17.6%	ほとんど していない 67.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.18		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 17.6%	適切 であった 82.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.94		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつた 2.9%	注意 してい た 73.5%	ある程 度注 意し てい た 23.5%	あま り注 意し てい なかつた -	全 く注 意し てい なかつた -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.97		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.21		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.56		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

食事療法論と連動して各病態別に食材の選択、分量、調理方法を理解し制約がある中で美味しい治療食を作ることを目的としている。栄養士免許取得後の就職先はさまざま、保育園から介護福祉施設に至るまで、あらゆる場面で実践力を試されることが多い。臨床系に特化した内容にすると15回では網羅しきれないので、学外実習先で必要とされる範囲の内容を中心に考え、一回の授業で1病態のことがマスターできるよう内容を設定している。特に保育園、介護福祉施設での学外実習で課題として出される食事とおやつに重点をおき、それぞれ2回の実習を行った。前年度と同様、費用面で許す限り腎臓病食と介護食の特別な食材は取り寄せて、知ってもらえるように心がけた。

2 アンケート結果に対する見解

「食」は「命」と直結しているという認識を持ってもらえるように実習内容を検討した。「食」について違った角度から実習を行うことで、学生の視野も広がったのではないかと考える。「減塩」をテーマにしている授業時のレシピを「給食管理実習」の献立にも上手く取り入れてくれていた。科目間の垣根を越えた真の応用になっており、予期せぬ効果があったと考える。さらに次年度に向けて現場でのニーズをより把握し、実習に取り入れていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

実習終了後にレポートを提出を課した。病態にまつわること、自分ならどんなメニューを取り合わせるか、アレルギー対応の実習時には献立作成も課題にして取り組んでもらった。成績については授業態度50% レポート提出50%として評価した。知識の定着を図るために今年は確認テストを行い、評価に加えた。学生が実習に取り組む姿勢、課題提出状況は相対的に良好であった。

4 授業改善の方法

現場で必要とされる技術や知識を定着させるためにも、学外実習で出される課題と上手く絡めて学生に指導したい。説明の部分の更なる充実をはかり、食事療法論の講義内容とできるだけ並行して進められるようにしていきたい。今年度は受講生が41名と多く、一度に実習となると実習室が手狭で説明の声が聞き取りにくい場所もあったので、人数が多い場合は時間割の設定、マイクを使用するなど考慮する必要がある。普通食から糖尿病食や腎臓病食への展開、高齢者向けへの工夫、アレルギーの人のための代替食品をどうするかなど応用ができるような授業にしていきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 池内 ますみ **職名** : 教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 食品衛生学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2160 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 45名 **回答者数** : 40名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	40	-	-	-	40	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.13		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 2.5%	90分 程度 2.5%	60分 程度 2.5%	30分 程度 15.0%	ほとんど していない 77.5%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 2.5%	90分 程度 -	60分 程度 7.5%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 70.0%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.47		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 10.0%	やや 高かった 45.0%	適切 であった 45.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.30		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 15.0%	注意 していた 60.0%	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.31		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.03		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.30		■				

1 授業の概要、特徴等

栄養士が給食の大量調理の衛生管理をするためにとても重要な科目である。食品の安全性に関する情報については、常に最新の知識を身に付けておくことが必要である。中でも食中毒に関する知識は特に重要であると考え、食中毒に関する統計データ等の総論と食中毒の病因物質に関する各論に分けて時間をかけた解説を心がけ、DVD教材等も用いて関心を高める工夫をしている。

2 アンケート結果に対する見解

ゆりのある教室を使用し、指定席としたため、私語はほとんど見られず、授業を進めることに集中できた。社会人学生が多いクラスで、授業中も社会人学生の関心の高さを感ずるため、内容についてはやや高度なところまで踏み込んだものとなった。関心の低い一般学生にとっては少し難解と感じた部分もあったかと思う。事前・事後に関する課題は、次回のテーマについての予告程度で済ませたが、授業の理解を深めることにつながる課題について工夫をすることが必要と考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

講義は計画どおりすすめることができたが、学生の理解度について毎回授業終了時に提出させる課題で確認はしているが、その段階で十分理解できていないと感じた学生もあった。試験前には全体のまとめで再度確認を行ったが、試験結果では十分理解できていない学生が1割強見られた。再試まで課題を与え試験を実施しある程度目標達成に近づけることができた。

4 授業改善の方法

毎回の授業内容を反復し定着させるための課題を与えることを検討する。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 毛受 真由美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 人体の構造と機能 I **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2115 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 36名 **回答者数** : 31名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	31	-	-	-	-	31	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.19		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 3.2%	60分 程度 3.2%	30分 程度 16.1%	ほとんど していない	77.4%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 6.5%	90分 程度 3.2%	60分 程度 19.4%	30分 程度 19.4%	ほとんど していない	51.6%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.35		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 9.7%	やや 高かった 41.9%	適切 であった 41.9%	やや 低かった 6.5%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.26		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 19.4%	注意 していた 41.9%	ある程度 注意 していた 32.3%	あまり 注意して いなかった 6.5%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.26		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.10		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.10		■				

1 授業の概要、特徴等

栄養学を学ぶ上で基本となる人体の解剖生理について概説した。教科書にそって授業を進め、特に重要と思われる点をプリントにして提供し、学習しやすいように配慮した。単なる暗記ではなく、ヒトすなわち自分のからだがどのようなしくみで成り立っているか理解することを主な目標とした。

2 アンケート結果に対する見解

授業の中でほぼ感じている通りの結果である。授業レベルについて「低かった」と感じている学生、「非常に高かった」と感じている学生にも配慮したいので、ぜひ質問に来てほしい。ハード面については、一教員の努力では補いきれない部分がある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

全員が8割以上得点できることを目標に試験問題を作成した。結果、出席時数が不足している学生以外は 全員単位を認定できた。単位を認定されていても 試験の成績が惜しくも8割に満たなかった学生はもう一度復習しておいてほしい。

4 授業改善の方法

プリントのどの部分について板書しているのか、どの部分についてのスライドか、確認しながら授業を進めていく。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 島村 知歩 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 調理実習 I **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2255ab **授業形態** : 実習 **受講者数** : 37名 **回答者数** : 35名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	35	-	-	-	-	35	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.31		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.9%	90分 程度 2.9%	60分 程度 2.9%	30分 程度 11.4%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 11.4%	90分 程度 14.3%	60分 程度 20.0%	30分 程度 17.1%	ほとんど していない 37.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.43		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 8.6%	やや 高かった 34.3%	適切 であった 51.4%	やや 低かった 2.9%	非常に 低かった 2.9%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.38		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 14.3%	注意 していた 77.1%	ある程度 注意 していた 8.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.32		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.40		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.63		■				

1 授業の概要、特徴等

2 アンケート結果に対する見解

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 松河 哲男 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : イラストレーション **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3435 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.67	■ ◆					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 90分程度	60分程度	30分程度	ほとんどしてしていない	無回答	100.0%	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度	60分程度	30分程度	ほとんどしてしていない	無回答	100.0%	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.17	■ ◆					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった やや高かった	適切であった	やや低かった	非常に低かった	無回答	66.7% 16.7%	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.17	■ ◆					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 注意していた	ある程度注意していた	あまり注意してなかった	全く注意してなかった	無回答	50.0% 50.0%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.17	■ ◆					
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.17	■ ◆					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.17	■ ◆					

1 授業の概要、特徴等

学生たちが、今後の社会生活において、グラフィックを活用することで他者と簡単に情報を共有できる事を学ぶ内容となっている。実際、文字が永遠と羅列されている文章のみの説明書よりは、図やマークなどで表現されていた方が理解を得やすい事を自ら作品を制作することでそのことを学ぶ。さらに、実績をつけるため、二科展デザイン部の公募に出品することと、産経新聞主催のポストカードデザイン大賞に応募する。

2 アンケート結果に対する見解

このアンケートの中で気になったのは、「○10この授業は自分の将来に役立つと思いましたか。」である。このイラストレーションという授業の作品制作では、結果次第で大いに役立つことになるであろうと思われるからである。というのは、実習や知識である程度のイラストレーションの技術は身につくが、実績としては公募の結果次第となっている。そういうところから、結果が漠然としているのは、当然かもしれない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は、①奈良県から要望のあった植栽のシンボルマークの作成②全国公募二科展デザイン部イラストレーション部門に応募するための作品制作③産経新聞社主催ポストカードデザイン大賞に応募するための作品制作 である。主な評価基準は、それら制作に向かう姿勢と取り組む熱意である。さらに、作品の完成度を加味しながら成績とする。そして、単位としては作品提出が最低基準となる。

4 授業改善の方法

今回、公募展出品者は6人であった。その結果は、いずれかの美術展覧会公募で準入選か入選している。本来目指した目標はほぼ100%達成したと思われる。しかし、今後は、さらなる良い授業環境を目指し、技術反復できる時間を多く持ちたいと思う。そして、今以上に取り組みやすい課題を見つけ、やりがいの出る実習に進化させるため取扱い教材の工夫を試みる。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 谷村 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 経理実務 I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3160 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.60		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.00		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 40.0%	やや 高かった 40.0%	適切 であった 20.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.20		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 20.0%	注意 していた 20.0%	ある程度 注意 していた 40.0%	あまり 注意して いなかった 20.0%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.20		■ ◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.80		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

・ 仕訳などの複式簿記の基本を中心に、講義を行った。また、単なる知識の習得だけでなく、実際の企業ではこれらの知識がどのように活かされているのかを理解してもらうべく、私自身の経理部時代の経験を極力まじえるように努めた。・ 授業の進め方としては、学生の興味や理解度に合わせて、適宜練習問題を取り入れ知識の定着をはかった。また、毎回1度は発言させるようにして、自主性の育成にも配慮した。

2 アンケート結果に対する見解

・ 概ね、納得のいく評価であった。・ 理解度の差から、満足度に若干差が出ているように思う。今後はさらに、個々の達成度に配慮した個別指導も充実させていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・ 仕訳などの複式簿記の基本については、概ね理解できたと思う。テストの成績も、ばらつきはあるものの、ほぼ想像通りのものであった。・ 総じてモチベーションが非常に高く、理解度も例年に比べて高かった。・ 理解度に差があったものの、相互に教えあう雰囲気作りに配慮することで、クラス全体のレベルを向上させることができたと思う。

4 授業改善の方法

・ 既学者（商業高校出身など）とそうでない者の理解度にはどうしても差が生じるため、レベルにあわせて個別に課題を課すなど、決め細やかな配慮を行っていきたい。・ 特にやる気のある学生に関しては、日商簿記検定3級受験に備えて、今後もフォローしていきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 谷村 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : 日本経済とビジネス **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3190 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	4	1	-	-	1	5	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 16.7%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない	50.0%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 50.0%	30分 程度 -	ほとんど していない	50.0%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.33		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	非常に 高かった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 16.7%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.17		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 33.3%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.50		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.17		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

・単なる知識の付与・習得ではなく、考察力の向上に注力した講義を行った。 ・前半は、経済学のテキストを適宜抜粋し、日本経済やビジネスを理解する上での基礎教養について講義を行った。後半は、ビジネスプランを作成するという実学的体験を通じて、経済の仕組みを肌で理解してもらうように尽力した。また最終日には、経済状況が変動する中でのビジネス感覚を体感してもらうべく、外部講師を招いて本格的なビジネスゲームを行った。

2 アンケート結果に対する見解

・アンケート結果は概ね妥当であると考えている。 ・理解度に応じて講義内容を変更するなど、レベル感に配慮した軌道修正を行ったが、全体的にやや高度であった点は否めない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・総じてモチベーションが低く、理解度も例年に比べると低かった点は否めない。 ・しかしながら、自分の目線で外部環境を判断し、考察する力は大きく向上したと思う。 ・また、関心のあるテーマについてはよく考察しており、ビジネスの基本や難しさは理解してもらえたため、全員に単位を認定した。

4 授業改善の方法

・理解度の差や関心事に配慮しつつ、臨機応変な講義内容としていきたい。 ・適宜時事課題を取り入れるなど、経済への関心がより高まるような内容を工夫していきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 大倉 清教 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活未来科
科目名称 : プロダクトデザイン I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3443 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	1	2	-	-	2	5	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.43		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 14.3%	30分 程度 57.1%	ほとんど していない 28.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 57.1%	ほとんど していない 42.9%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.29		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 42.9%	適切 であった 28.6%	やや 低かった 14.3%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.43		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 71.4%	注意 していた 28.6%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.57		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.29		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.43		■				

1 授業の概要、特徴等

プロダクトデザインには、単に製品のカタチを絵にするだけでなく、商品としての市場戦略、企画から製品開発、生産・販売展開まで一貫してプロデュースすることが求められている。この能力こそ、これからの時代を生き延びてゆく企業にとって経営資源となることを理解し、その一端を担う、デザイナーには他と協調して企画提案する能力が必要とされている。その手法を体得する授業とする。

2 アンケート結果に対する見解

本授業では、様々な対象や目的に注目してデザインの役割を概観するとともに、実際にグループによる商品企画を実践し、必要な手法を習得することを目標とした。授業の内容と狙いを都度、学生に伝えながらすすめたので、アンケートの結果については、ほぼ予想通りである。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

実習課題は、下記1～5であり、ほとんどグループワークで行った。実習1 身の回りの課題を発見する。(KJ法) 実習2 課題の要因を探る。(特性要因) 実習3 課題解決策を考案する。(デザイン要件の設定) 実習4 発想をカタチにする(アイデアデベロップメント) 実習5 分かりやすく伝える(プレゼンテーション) 成績評価は、各学生のレポートで理解度を評価基準とした。実習5のプレゼンテーション能力には、全員課題が残るが、デザイン手法を理解させることができた。

4 授業改善の方法

日常的に、ものごとに対する疑問を投げかけ、問題を発見することに努め、具体的な場面を(写真撮影などで)記録する課題を与え、その習慣を身に付けさせる。また、他人にわかりやすく伝えるプレゼンテーション手法を取り入れる

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 向井 光太郎 **職名** : 准教授 **所属** : 生活未来科
科目名称 : マーケティング **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3180 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	-	2	-	-	-	7	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 14.3%	90分 程度 14.3%	60分 程度 14.3%	30分 程度 -	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 14.3%	90分 程度 -	60分 程度 14.3%	30分 程度 14.3%	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 57.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.29		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 57.1%	注意 していた 14.3%	ある程度 注意 していた 28.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	-	4.29		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.29		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.14		■				

1 授業の概要、特徴等

企業が市場に提供する商品としての財やサービスと、顧客との関係を創造・維持する手法を基本的かつ体系的に学習するもの。商品、価格、プロモーション、流通を4P、市場セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングをSTPとして、企業の事例を紹介しながら繰り返し学び、商品の売り方を考えることにつなげる。授業では、コミュニケーション機会も設定して履修学生の発想力向上やプレゼンテーション能力の向上も同時に目指した。

2 アンケート結果に対する見解

おおむね想定していた評価であると認識している。入学生にとってビジネスの世界で実践されているマーケティング知識は、容易に理解することが困難な領域である。そのため、学生にとって身近な消費行動や購入商品に目を向けさせながら、マーケティング手法の基本的知識を解説しながら授業を進めたが、半期だけでマーケティングを理解することは不可能である。続編としての教育機会を他科目の中で見出すように工夫してきた。履修生が就職後に直接携わるビジネス実務系の情報をインプットさせる機会が必要だと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

1. マーケティングの基本を勉強することで、企業と社会の関わりをビジネスの仕組みから学ぶ。2. マーケティングの基本を勉強することで、自分のこれまでの経験やセンスを活かして、アイデアや発想の素質をどんどん磨き、これからの大学生活や実社会の中で役立てる。以上を目標にし、出席ポイント、コミュニケーションポイント、アイデアポイント、まとめポイント(学期末試験)の総合評価を行っている。その際には、基本知識に裏付けられた発想やアイデアのアウトプットを授業時間内で評価し、最終的に単位認定している。

4 授業改善の方法

マーケティングの全般知識を体系的に学ぶ前提であっても、その中でも特に知ってもらいたい内容について、集中的に時間をかけて学習する機会へ転換することも重要であると考えている。学生の就職先での業務内容にリンクさせることで、社会で働く自分像の中にマーケティング知識や手法が組み込まれるよう、コミットメントを重視した授業計画とテーマ設定をする必要があると考えている。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 大城 弓恵 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304ab・bd・ce **授業形態** : 演習 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	13	1	-	-	-	-	-	13	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.14		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 21.4%	60分 程度 14.3%	30分 程度 57.1%	ほとんど していない 7.1%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 28.6%	60分 程度 21.4%	30分 程度 42.9%	ほとんど していない 7.1%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.07		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 14.3%	やや 高かった 21.4%	適切 であった 64.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.71		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 42.9%	ある程度 注意 していた 7.1%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.57		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.29		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.57		■					

1 授業の概要、特徴等

この授業はピアノの演奏技術の習得を目標としている。課題はピアノ曲の演奏とこどものうたの弾き歌いの2種類があり、弾き歌いに関してはカデンツを用いた伴奏を学ぶ。授業は個別レッスンとグループレッスンとに分け行う。グループレッスンではEP教室を使い歌唱やピアノ演奏のテクニック、弾き歌いの伴奏練習を行い、個人レッスンでは各自の課題曲のチェックをする。

2 アンケート結果に対する見解

授業形態が個人レッスンであるため授業態度は特に問題なく、授業の妨げとなるようなことはなかった。授業態度はとても良いが、日々の練習に目を向けると1週間に30分程度の練習と答えた学生が多く、自学自習の習慣が付いたとは言えないように感じる。ピアノを弾くということの必要性は十分に感じているように思うが、継続的に練習するということまで及んでいない学生も多い。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成はピアノ曲と弾き歌いを課題曲数以上合格していることで判断する。期末試験は課題曲(弾き歌い)と、自由曲(ピアノ曲)の2曲で、自由曲はそれぞれのレベルに応じた曲を選ぶ。評価は演奏に対する絶対評価で行う。期末試験の評価に平常点等を加味し最終成績とする。

4 授業改善の方法

年々ピアノ初心者の学生が多く、経験の無い学生ほど練習をしてこないことが多い。練習の仕方が分からない、一人ではどうすればいいかわからないということもあると思う。なるべく具体的な練習法や課題を提示するよう心掛けているが、練習を定着させることはなかなか難しい。継続的な練習、自学自習が出来る基礎力を身につけられるよう工夫して指導していきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304af・bb・cb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	13	1	-	-	-	-	-	14	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.71		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	28.6%	7.1%	50.0%	14.3%	-	-	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.43		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	
			7.1%	-	92.9%	-	-	-	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.93		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった	注意 していた	ある程度 注意 していた	あまり 注意し ていなかった	全く 注意し ていなかった	無回答	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.86		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.71		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■				

1 授業の概要、特徴等

ピアノ演奏の初歩、バーナム・ケラーの教則本を用いたの授業。童謡弾き歌いの導入 音符の読み方・楽譜の理解・楽語の理解。指導は個人授業とE Pでの集団授業の組み合わせ

2 アンケート結果に対する見解

学生が興味をもって課題に取り組めるよう、曲の成り立ちや楽語の説明など色々な言葉かけをしている。今期は、学生の取り組みも積極的で予習や復讐を良くしていた。今後も学生がこの曲が弾きたいと意欲を持てるよう更に努力をしたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業で決められた曲数を合格し、試験で課題の曲をミス無く演奏する。童謡は弾き歌いで大きな声で歌える事。複数の講師で採点し、平均点を出す。平常点も加味される。

4 授業改善の方法

時間のかかるピアノの練習。やる気をいかに継続させられるか。ピアノに興味を持てるように色々な角度から、声掛けをしていきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55304bc・cc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	8	-	-	-	-	-	-	7	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.63		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 25.0%	60分 程度 37.5%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない	-	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 12.5%	90分 程度 25.0%	60分 程度 50.0%	30分 程度 12.5%	ほとんど していない	-	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.75		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 12.5%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 37.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	-	無回答 -
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.88		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かった 50.0%	注意 してい た 50.0%	ある程度 注意 してい た -	あまり 注意し てい なかつ た -	全く 注意し てい なかつ た -	-	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.88		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.75		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.88		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

この授業は、個人レッスンとグループ学習で構成される。個人レッスンでは、学生は各々の能力に応じたアドバイスを受け、保育現場で必要とされる音楽の基礎技術を習得し、表情豊かなピアノ曲の演奏とこどものうたの弾き歌いの方法を学ぶ。グループ学習では、授業時間を十分に活用した練習を行い、効率よく基礎的な内容を学び、個人レッスンでの成果が上がるようアドバイスを受けることができる。

2 アンケート結果に対する見解

この授業を受けて、概ね学生は目標を達すべく学習していたと思われる。事前の勉強や授業後の取り組みについては、より時間を重ねればそれだけ成果は上がるので、継続的な毎日の練習を増やしていってくれば、なお達成感をもって演奏技術の習得を得られるものと期待する。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

音楽 I では、ピアノ曲と弾き歌い曲合わせて4曲以上を合格し、中間試験と期末試験において課題の曲を演奏することで、単位認定される。評価としては、速度や強弱、正しい指遣い、発声法等、その曲に応じた演奏が出来ているかを基準になされる。

4 授業改善の方法

ピアノ演奏の基礎技術は、何よりもまず日々の練習の積み重ねによって獲得されるものであるため、学生がその必要性をよく理解し、継続的な努力をしていけるよう、またそれにより上達の実感を得てよりレベルの高いものを目指していくことができるよう、適切なアドバイスを心がけていく。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 玉井 奈摘 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅲ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55321ac・bc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 8名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	8	-	-	-	-	-	8	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.13		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 50.0%	30分 程度 50.0%	ほとんど して いない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 50.0%	30分 程度 37.5%	ほとんど して いない 12.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.25		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	非常に 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 50.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.75		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 37.5%	注意 していた 37.5%	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	4.63		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.25		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.75		■				

1 授業の概要、特徴等

音楽Ⅰ・保育(表現・音楽)で学んだことをいかしながら、さらに演奏技術・表現技術を磨く。楽譜から正確に情報を読み取り、一つの曲を多角的に掘り下げながら専門的なことについても取り組む。また就職試験の実技試験対策として初見についても勉強する。前期音楽Ⅲと後期音楽Ⅳに分かれており、それぞれ必要な合格曲数を設定する。音楽Ⅰのようなグループレッスンはなく、個人レッスン形態で授業をすすめる。

2 アンケート結果に対する見解

①⑦について、レッスンを受けていない者は練習時間となり、個室でそれぞれ練習に励むというシステム上、レッスン室外のところまでは目が行き届かず、時折見まわると数人で練習室で遊んでいたりする者がおり、中には受講者でない者もいる為その度に注意していたがなかなか改善には至らなかった。②③について、練習不足の者には個別に話をするなど指導に当たっていたが、同じ実技系ピアノの授業の練習もあり、なかなかこちらの課題曲まで手が回らないという声が多くあがった。⑤について、曲のレベルについていけないという声がちらほら聞かれたが、それでも⑩のように将来役に立つと答えた学生が半数以上いたことは得意・不得意に関わらずこの授業の大切さを感じていることが分かった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

合格曲数を3曲とし、初見にも取り組む。期末試験での演奏と普段の取り組み姿勢や出席回数などを加味し単位認定する。期末試験を受けなければ後期の音楽Ⅳの受講ができない。

4 授業改善の方法

3限と4限で受講者数にバラつきがあり、3限では一人当たりの時間が非常に少なく、細かなケアができない部分もあったが、ただ単に機械的に弾くのではなく表現するということまで踏み込んで指導は出来たように思う。まだまだ楽譜を読み取るということが出来ない学生が多く、それが練習がはかどらない一因であるとも感じた。後期はこの部分の改善を図りたい。その為には繰り返し理解できるまで説明することや、どうしても耳からの情報に頼るため初見の楽譜を使ってリズムの説明をするなど、読譜力を身につけることによって誰かに教わらなくても自身の力で読み取れるように指導する。練習=辛く、苦しいものではなく、どんな曲か好奇心を掻き立てるような、そこから取り組み、弾けるようになった時の喜びや達成感を感じてもらえるものになりたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 大西 有紀 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55400ba・bc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 35名 **回答者数** : 35名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	35	-	-	-	-	-	-	35	-	-	-

評価項目		教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.34		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 8.6%	30分程度 45.7%	ほとんどしていない 45.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 2.9%	90分程度 5.7%	60分程度 8.6%	30分程度 48.6%	ほとんどしていない 34.3%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.51		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 8.6%	やや高かった 14.3%	適切であった 77.1%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.77		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度注意していた	注意する必要はなかった 42.9%	注意していた 37.1%	ある程度注意していた 20.0%	あまり注意していません -	全く注意していません -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.80		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.40		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.80		■				

1 授業の概要、特徴等

目標：階名で歌う。大きな声で歌う。子供の歌を階名だ記入し歌う。一人で歌う体験をさせる。将来、保育の現場で役立つ実践できるよう個々の能力を高めていく。

2 アンケート結果に対する見解

歌うことが楽しい。と、記してくれていたことは嬉しく思った。今の雰囲気を大切にしつつ更に学習意欲を高められるよう創意工夫して授業を進めてゆきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

10回以上の出席。中間・期末試験の成績。授業態度、毎回の取り組み、課題達成度を加味し総合的に評価する。

4 授業改善の方法

集団授業なので気を付けているが個人に目が行き届かない事がある。一人一人の能力・意見に、目を耳を傾け真摯に向き合い指導してゆきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 澤田 博 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55400a・ac・b・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 66名 **回答者数** : 63名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	63	-	-	-	-	-	-	63	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.14	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 1.6% 90分程度 3.2%	60分程度 7.9%	30分程度 39.7%	ほとんどしていません 47.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 1.6% 90分程度 6.3%	60分程度 4.8%	30分程度 44.4%	ほとんどしていません 42.9%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.92	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 33.3% やや高かった 44.4%	適切であった 19.0%	やや低かった 1.6%	非常に低かった -	無回答 1.6%	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	2.87	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 9.5% 注意していた 47.6%	ある程度注意していた 33.3%	あまり注意していません 6.3%	全く注意していません -	無回答 3.2%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	2.87	■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.68	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.15	■				

1 授業の概要、特徴等

音楽初心者が、音楽 I の学修を確実なものとするため、楽譜の読み方を知り楽譜を音として実現する力を身につけることを目的とする科目である。受講者を2分し、理論とソルフェージュを45分ずつ学習する。中学校あるいは高等学校の音楽では読譜指導がほとんど行われていない現状に鑑み、音部記号・調号・拍子記号、音符と休符、階名と音名、長音階・短音階、簡単な和音とコードネーム、基本的な用語と記号を主たる内容としている。楽譜を書いたことがない学生が多いので、授業の中で積極的に書く作業を取り入れている。

2 アンケート結果に対する見解

自分が容易に理解できる範囲での授業を期待している学生が多いことを如実に示している。自由記述に「説明が分かりにくい」「進み方が速い」という意見が多いが、授業後に質問に来る学生はほぼ皆無であった。音楽の体験が乏しい学生が多いため新しい言葉や概念が出て来るが、それに対応していく術を身につけていない。記入あるいは弾く練習を課題として指示するほか、課題を指定しない場合でも、事後学習の必要性を常に話している。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本来の授業目標から見て達成度が低い、他教科との兼ね合いもありやむを得ない。②及び③の回答が、全体平均及び科目群平均より長いことは評価できる。しかし45分の授業に対し24分というのは単位修得の条件を満たしていない。授業内ですべて理解できる授業設計ではなく、自学自習が必要であることは授業開始時以外に常々説明している。

4 授業改善の方法

新しい言葉や概念を理解する術を身につけるにはどうすべきかを具体的に伝える必要があり、そのための方法を工夫しなければならないと思っている。①判らないことがある→②自分のものにして努力した→③新しい知識や技術が身についた という経験式を持っていない学生が多い。この手順を獲得させることが、大学の最初の一步(初年次教育)であると考え、常に努力する方法及び環境を学生に提供する必要を感じている。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 中島 倍代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習 I **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55400ab・ad **授業形態** : 演習 **受講者数** : 31名 **回答者数** : 31名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	31	-	-	-	-	-	-	31	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.55		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 6.5%	60分 程度 3.2%	30分 程度 41.9%	ほとんど していない 48.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 6.5%	60分 程度 6.5%	30分 程度 48.4%	ほとんど していない 38.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.58		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 12.9%	やや 高かった 35.5%	適切 であった 51.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.58		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 38.7%	注意 していた 48.4%	ある程度 注意 していた 12.9%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.48		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.45		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.71		■				

1 授業の概要、特徴等

クラス授業。20名程度で45分の音楽理論と45分のソルフェージュで構成。楽譜を読む、歌う、弾き歌いをする、リズムを打つ、書くなど基礎能力をつける。

2 アンケート結果に対する見解

授業の分かり易さをいつも心掛けていることが、ある程度伝わっている様に思う。今年の学生は、概ね静かに授業を聞いている。それは、学生達と認識が一致している。それで、授業の目的も伝えやすかった。後期もこの状態が維持出来る様に注意していきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

保育現場で使える力を付ける事が目標。中間試験、期末試験では、大きな声で丁寧に歌うこと、礼儀正しい態度で試験を受ける事、授業態度では、静かにきちんと聞く、必要な教材を忘れないこと、を評価する。

4 授業改善の方法

前回も書いたが、どのレベルの授業をすると良いのかが難しい。静かな環境で各学生の反応を注意して見ていこうと思う。音楽関係の授業は色々あるので、各授業との連携を密にして1人1人の力に柔軟に対応したい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 田中 善大 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 学習・発達論 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52002abc **授業形態** : 講義 **受講者数** : 75名 **回答者数** : 72名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	68	4	-	-	-	-	-	72	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.25		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.4%	90分 程度 1.4%	60分 程度 1.4%	30分 程度 12.5%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.4%	90分 程度 -	60分 程度 4.2%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 77.8%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.55		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 6.9%	やや 高かった 44.4%	適切 であった 48.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.42		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 8.3%	注意 していた 76.4%	ある程度 注意 していた 15.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.42		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.22		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.49		■				

1 授業の概要、特徴等

教育及び保育実践に関わる発達心理学及び教育心理学の基礎的な知識と応用実践について講義を行った。講義では、内容に関する質問を定期的に学生に行い、学生が主体的に考える機会を設定した。質問への回答の動機づけとして、回答をプリントに記入させ、これに対して授業点を与えたり、回答に関する発表の機会を設定する等の工夫を行った。他にも、授業内容に関する映像資料を積極的に活用し、学生の理解の促進、定着を図った。

2 アンケート結果に対する見解

アンケート結果、授業時間外の学習時間(②、③)を除くすべての項目が平均点を上回っていたことから、本授業の内容、形式は概ね受講生に適したものであったことが推察される。授業時間外の学習時間については、平均を下回る結果となったが、これは、授業外の課題や勉強方法等を提示しなかったことが要因であると考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業内試験、受講態度、提出物の状況から単位認定を行った。試験では、シラバスで設定した4つの学修内容/到達目標の達成を測定するために、発達心理学及び教育心理学の基礎的な知識に加え、その応用についても解答させた。多くの受講生が、学修内容/到達目標を達成し、単位の認定を受けたことから、本授業が、学修内容/到達目標の達成において適切なものであったことがわかる。

4 授業改善の方法

アンケート結果から、授業時間外の学習時間の増加の必要性が示唆された。このために、次年度の授業では、授業外における学習方法や課題等を提示する予定である。また、自由記述に「教科書を読むときに途中でたくさん話すのをやめてほしい」との意見があったので、この点について配慮する形での授業運営を行う予定である。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 増井 啓子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 教育実習指導b **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 57104 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 45名 **回答者数** : 41名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	39	1	1	-	-	-	40	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.27		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 4.9%	90分 程度 2.4%	60分 程度 9.8%	30分 程度 26.8%	ほとんど していない 56.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 4.9%	90分 程度 4.9%	60分 程度 7.3%	30分 程度 29.3%	ほとんど していない 51.2%	無回答 2.4%	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.56		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	非常に 高かった	非常に 高かった 4.9%	やや 高かった 29.3%	適切 であった 65.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.37		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 26.8%	注意 していた 56.1%	ある程度 注意 していた 17.1%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.37		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.32		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.63		■				

1 授業の概要、特徴等

幼稚園教諭の免許を取得するために、必要な科目と共に幼稚園現場での実地実習を通して幼児教育の理論・技術と実践の統合を目指す。

2 アンケート結果に対する見解

子どもたちと接する幼稚園教諭の責任は重大であり、また社会の中でも大切な役割を果たしている。保育の理論や方法と実践との統合を目指して学習することを理解する。また、専門的知識・指導力・保育技術につながる教材研究を深めてもらいたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

・教育実習に意欲的に取り組み、幼児教育の目的・内容を理解する。 ・実地実習に必要な教材研究を通して、保育技術を身に着ける。 ・教育実習の心構え、注意点を理解する。 評価 受講態度 20% 実習記録簿評価 20% 実習事後レポート 20% 実習評価表 20% 提出物の評価 20%

4 授業改善の方法

今後も幼稚園教諭になるために必要な情報(客観的なデータや最新情報等)をわかりやすく紹介していきたいと考えている。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 片岡 三和 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 教職入門 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51042ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 66名 **回答者数** : 56名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	54	2	-	-	-	-	-	56	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.04		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 5.4%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 69.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 1.8%	60分 程度 1.8%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 71.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.48		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 1.8%	やや 高かった 23.2%	適切 であった 75.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.46		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 5.4%	注意 していた 75.0%	ある程度 注意 していた 16.1%	あまり 注意し てい なかつ た 3.6%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.45		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.34		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.68		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

教職者(保育者)の社会の位置と幼児たちの前の位置の二つの位置の違いとその意味について具体的に進めていく授業です。知識としてのみではなく、「保育をする」意味を様々な例を通して、また実際に体感していくことで少しでも、教職に対し、期待と希望を持って理解してもらいたいと取り組んでいます。

2 アンケート結果に対する見解

学生たちの様子を見ながら受身のみで授業が進まないよう工夫してきたが、通じていただろうか。板書については、机上の知識にならないよう進めたかったのと、持ち込みありの試験のため自分で、レポートを書くようにメモするための二つの理由により板書の時間は極力避けました。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

乳幼児の前に立つ保育者としての姿勢と心構え等を最小限の知識とともに大切にしました。ただし、教育的諸問題については深く触れることはできませんでした。成績評価基準は知識と心構えの面とを両方評価しました。そして筆記テスト以外に、授業への取り組み態度として、提出物状況・出席実態・授業態度等々も合わせて評価しました。

4 授業改善の方法

学生が「今日はこのことを学んだ」と、はっきり見えるような、わかりやすいまとめ方をした授業を心がけたいです。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 梶田 萬理子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 教職入門 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 51042c **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	7	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.29		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	5.00		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.57		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった	注意 してい た	ある程度 注意 してい た	あまり 注意し てい なかつ た	全く 注意し てい なかつ た	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.71		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.43		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.86		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

小学校の教員免許取得希望の学生に、教職の意義及び教員の役割、職務内容を講義する。また、進路選択に資する各種の機会の提供などを行う。授業の進め方は、教育現場の話を具体的に伝え、教職の特質や意義、難しさなどについて考察を深められるようにする。また、教職を目指して学ぶ際に、何が必要かを理解し、そのための心構えをつくとともに、教職に就いた際に、自分の実践を深めていける素地を形成することを目指して進める。

2 アンケート結果に対する見解

事前の課題や、事後の課題を明確に伝えていなかった結果がよく出ている。毎回授業の始めに、人前で話すことに慣れるため「スピーチ」を取り入れてきた。私は、これを事前の課題として考えていたが、学生にはその意識が弱かったことが分かった。また、少人数だったので、授業中の学生への注意は、各自の自主性に任せて控えめに進めた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標はおおむね達成できた。具体的な事例を用意した日は、学生の理解が進み、手ごたえを感じたが、理論的なことが増えた日は、戸惑ったり集中が続かなかったりした。授業への参加度としては、思考する姿勢や、討論への参加と貢献について評価し、その割合は、期末レポート(50%)、出席(20%)、授業への参加度(20%)、毎回の「ふり返り」(10%)である。個々の誠実な取り組みが見られ、効果があった。

4 授業改善の方法

少人数の良さを生かし、学生が主体的に授業に参加できるように今後も、相互のコミュニケーションを増やして進めたい。シラバスにそって、具体例をさらに盛り込んで学生が考えを深めるような環境をつくっていききたい。また、事前の課題や事後の課題を明確にし、問題意識をもったり本を読んだりする生活ができるように指導していききたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 重松 敬一 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 算数 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55140 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	7	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.43		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 42.9%	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	◇
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 57.1%	ほとんど していない 42.9%	無回答 -	◇
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	2.71		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 57.1%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 14.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	◇
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	2.57		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 57.1%	ある程度 注意 していた 28.6%	あまり 注意して いなかった 14.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	◇
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	2.14		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	2.43		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.00		■				

1 授業の概要、特徴等

本授業の到達目標は次の2つであり、ポイントを→で示している。(ア) 算数教育において、関心・意欲・態度や数学的な考え方の目標設定を理解し、学習指導案作成のプロセスを理解する。(イ) 数学的及び社会的な視点で考察し、算数科教育の意義を理解する。→ 目標設定にあるポイントは授業の各回のポイントを写真なども利用して解説し、それを踏まえて、レポートに向けて、数学的・社会的な視点から算数科教育の意義などを一層理解するとともに、学習指導案作成への教材研究を課題とした。

2 アンケート結果に対する見解

学生は、一名の大学終了・社会人経験者を除いて、高校を卒業したばかりであり、小学校の算数の学びを想起させたものの、現在の算数の課題や指導上のポイントなどへのイメージ化は難しかったようである。他のテキストを購入させることは避け、学習指導要領解説をテキストとしたものの、それでも読むのが難しい(用語など)ようで、プリントを使つての授業とした。その結果が、「プリントが多い」という反応であり、学生の状況や求められるものを考慮しての展開を図ったが、教員の期待との齟齬が大きかったと考えられる。とくに、アンケートの実施時期が、レポート課題を説明した直後だったこともあり、より、負担感を感じ、アンケートに反映したものと思われる。アンケート実施の後の時間で、レポート課題への予備発表会を行った結果、課題の理解、算数教育の理解が少し改善できたようで、アンケート実施の時期も考える必要があることが分かった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

算数教育のポイントの理解と教材研究を目標達成として、授業の参加意識・小課題の達成・レポートの達成で判断し、一名の出席不十分な学生を除き、90, 82, 80, 80, 75, 73で単位認定した。

4 授業改善の方法

公開講座で小学生に実際に接して、子どもへの支援の難しさを知ったようなので、授業での具体的な事例による説明や討議などをより重視するように授業改善を図りたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 唐沢 三代子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 児童館の機能と運営 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53319 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 18名 **回答者数** : 12名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	12	-	-	-	-	-	12	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.67		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 75.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.09		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 33.3%	適切 であった 58.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 8.3%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.82		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意す る必要 はな かった 25.0%	注意 してい た 25.0%	ある程 度注 意し てい た 41.7%	あ ま り注 意し てい な か つ た -	全 く注 意し てい な か つ た -	無回答 8.3%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.64		■ ◇				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.00		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	2	4.09		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

当初、レジュメを作成しそれに沿って口頭説明をしながら時折広報物等を配布し、講座を進めていく計画であったが、学生たちが「児童館」を知らない、行ったことがないという事が分かり、映像で進めようとパソコンを使ったパワーポイントによる進行に変えた。また、見るばかり、聞くばかりでは退屈すると思い、創作活動も取り入れ進めていった。また、休息タイムを設け、その時間は実践で使えるゲームの遊びをいくつか提供し、一緒に遊びを楽しんだ。

2 アンケート結果に対する見解

学生たちは児童館についての知識が皆無であった為、講座を進めていくことが非常に困難であった。事前学習、事後学習がほとんどされていないことからそれは伺われる。とにかく児童館について知ってもらおうと映像を使って授業を進め、様々な広報物を配布し、理解を促したが中々かみ合わず空回りの状態であった。児童館で働かなくても、仕事をする心構え等についてのコメントを時折したがどれだけ理解してもらえたかは不明だったが、少しは響いていたようだ。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

少なくとも、児童館とはどんな施設か、だれが利用対象者でどんな活動を日々行っているのか等は理解できたのではない。しかし実際、児童館が身近にあったなら講座との比較検討もできると思うが、全国的に児童館が減少傾向にあり、特に京阪神には設置数が少ないので、学生たちにとってはそもそも「何の為にこの講座を受講するのか」もあいまいだったのではないと思う。成績評価基準に沿って判定し提出したが、複数担当で当たっていたので最終単位認定の結果は潮谷先生にお任せしたので、結果がどうなったのかわからない。出席日数は足りているが試験日に欠席した学生などの扱いがどうなったのか、結果を知らせて頂けると良かったと思う。

4 授業改善の方法

卒業に必要な単位取得の為に受講する学生がほとんどであった為か、ずーっと寝ている学生もいた。そんな学生を起こしながら講座を進めていく事はあえてしなかったが、退屈しないように様々な工夫はした。が、あまり効果はなかった。そもそも、児童厚生員2級資格を取得希望しない学生にこの講座は無意味だと思う。学童保育所の指導員養成の方が、社会的需要は高いし、将来の仕事としての選択肢もあると思うので、講座の内容を学童保育の事も学べるように「児童館と学童保育」みたいに膨らましたらどうだろう。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 山口 直範 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 社会的養護内容 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53221ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 65名 **回答者数** : 57名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	55	1	1	-	-	-	55	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.88		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 5.3%	30分 程度 10.5%	ほとんど していない 84.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 1.8%	60分 程度 5.3%	30分 程度 14.0%	ほとんど していない 78.9%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.28		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 3.5%	やや 高かった 29.8%	適切 であった 64.9%	やや 低かった 1.8%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.19		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつた 8.8%	注意 してい た 61.4%	ある程 度注 意し てい た 24.6%	あま り注 意し てい なかつた 5.3%	全 く注 意し てい なかつた -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.95		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.91		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.25		■				

1 授業の概要、特徴等

1年生後期に開講された社会的養護の演習科目であるため、基本的に新しい知識を見つけるのではなく、1年時に学んだことを実践するための演習が中心である。テキストには章ごとにワークショップが掲載され、児童虐待や障害児支援など児童養護についての事例が紹介されている。その事例に対して、講義時間内に対処方法や問題点を記述する内容である。

2 アンケート結果に対する見解

学生の授業態度については、「非常勤講師＝実習指導に関係ない」という態度の学生が多く目についた。学生との関係性の影響が顕著に現れている結果だと感じた。また、総合評価が平均値より低いのは、以下の理由が考えられる。⑨はそもそも新しい知識を学ぶ科目ではない。また、質問項目自体がダブルバーレルであるため、学生は適切な回答ができない。⑩は児童養護関係に就職する学生が少ないため、直接将来役立つと感じるものが少ないのではなかろうかと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

筆者が非常勤になってから2年目になるため、資格取得の意思がある学生と卒業のみの学生を把握できていない。そのため成績評価の際に落としていいものなのかと考えることが多かった(2年生時の保育士必修科目)。再試験で救われることになるのだが、もし、テスト結果と出席状況を厳格に採点したら、半数近くの学生が単位を落とすことになったであろう。

4 授業改善の方法

1年生時に学んだ内容を生かして考える講義なのだが、1年時に学んだことを覚えていないため、非常に浅い考えを持つ学生が多いことがテスト解答の内容から明らかになった。今後は、講義終了時に次回に備え1年時のテキストのこの部分を読んでおくようにと具体的な指示をしたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 早川 淳 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健A **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52100ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 75名 **回答者数** : 63名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	59	4	-	-	-	-	-	62	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.55		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 1.6%	60分 程度 3.2%	30分 程度 9.5%	ほとんど していない 84.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 -	60分 程度 3.2%	30分 程度 11.1%	ほとんど していない 84.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.94		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 6.3%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 60.3%	やや 低かった 1.6%	非常に 低かった 1.6%	無回答 1.6%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.29		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 7.9%	注意 していた 19.0%	ある程度 注意 していた 41.3%	あまり 注意して いなかった 25.4%	全く 注意して いなかった 4.8%	無回答 1.6%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.37		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.75		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.21		■				

1 授業の概要、特徴等

学生が大学に入学するまで、保健の知識としては身体に関する事柄や病気に関する事柄であるが、確実に知識として身につけているかといえば疑問が残る。 実習先でよく注意される事柄として、「子どもの発達に関する知識が不十分だ」と、そのため、子どもの健全な心身の成長と発達への理解を深めていくことを重要課題として、また、保育者としての役割と注意点について詳細に授業のなかで提示していきながら、保育者としての役割と自覚を促していくことを課題としている。

2 アンケート結果に対する見解

学生が大学に入学するまで、保健の知識としては身体に関する事柄や病気に関する事柄であるが、確実に知識として身につけているかといえば疑問が残る。 実習先でよく注意される事柄として、「子どもの発達に関する知識が不十分だ」と、そのため、子どもの健全な心身の成長と発達への理解を深めていくことを重要課題として、また、保育者としての役割と注意点について詳細に授業のなかで提示していきながら、保育者としての役割と自覚を促していくことを課題としている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成は毎日復習のための小テストの評価と最終に行われるテスト結果から検討する。 成績評価基準と単位認定は小テストとテスト、さらに、出席回数と授業態度 質問に答えることができる、また、静かに聴いていることを基準としている

4 授業改善の方法

今後の授業改善の方法として、後期はグループワークを多く取り入れていきたい。 テーマを決め、小グループに別れて、意見の交換をして、発表する。 一方的な講義内容でなく、全員参加型の講義にしていきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 石田 寿子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健演習 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52121abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 65名 **回答者数** : 58名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	56	-	1	-	-	-	57	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.67		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 5.2%	90分 程度 -	60分 程度 6.9%	30分 程度 6.9%	ほとんど していない 81.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.4%	90分 程度 -	60分 程度 6.9%	30分 程度 12.1%	ほとんど していない 77.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.05		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 12.1%	やや 高かった 20.7%	適切 であった 65.5%	やや 低かった -	非常に 低かった 1.7%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.84		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 8.6%	注意 していた 41.4%	ある程度 注意 していた 41.4%	あまり 注意して いなかった 8.6%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	3.86		■ ◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.81		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.10		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

1年生で「小児保健A」「小児保健B」の講義を受けて、この「小児保健演習」となる。これまでの知識とこの授業の演習で実践したことを結び付け、より知識を深めることができる。また、実際に演習を行うことから根拠や注意点を得ることができる。

2 アンケート結果に対する見解

非常勤である立場から、課題を出した場合の質問対応や提出方法を考えてしまい、できるだけ、授業時間内で、知識の確認→演習→振り返りの形式を選んだ。しかし、学生間の授業へ取り組む姿勢に幅が広く、意識の高い学生がより学べるように自主学習の課題を提示すればよかった。育児に関する演習項目であることから、すでにこれまでの実習で経験済みの内容もあり、学生のレディネスを詳細に確認すべきだった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価は科目責任者が実施したため不明。

4 授業改善の方法

学生間での差(知識量や理解力、授業への姿勢)が大きく、授業レベルを定めることが難しかった。成績が優秀な学生がさらに伸びるように、基礎的な内容の中を抑えたあと、調べる課題を提示し知識が深まるようにする。また、演習時間と説明や振り返りの時間を事前に提示し学生が計画的に動けるようにする、時間が来たら一度終了し、講義と演習のメリハリがつくように工夫する。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 三宅 靖子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健演習 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52121abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 65名 **回答者数** : 58名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	56	-	1	-	-	-	57	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.67		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 5.2%	90分 程度 -	60分 程度 6.9%	30分 程度 6.9%	ほとんど していない 81.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.4%	90分 程度 -	60分 程度 6.9%	30分 程度 12.1%	ほとんど していない 77.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.05		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 12.1%	やや 高かった 20.7%	適切 であった 65.5%	やや 低かった -	非常に 低かった 1.7%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.84		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 8.6%	注意 していた 41.4%	ある程度 注意 していた 41.4%	あまり 注意して いなかった 8.6%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.86		■ ◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.81		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.10		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

子どもの発達・発育・健康状態について、実際の状況をイメージさせ、モデル人形使用や視聴覚教材によって、よりリアルに科目内容を理解しやすくする工夫をした。実際には、実習を経験しているものとまだ実習を経験していないものが混在し、授業の理解度には個人差が大きいことを実感した。しかし演習の中で、実際場面を想起させ、かかわり方などの技術は、高められたと考える。

2 アンケート結果に対する見解

学生達は、自分の将来にこの科目の学習が役立つと思っているものが約8割ほどであり、学習の必要性は理解していたと考える。また、新しい知見についても関心が高くなったと答えているものが7割と高く、科目の目的についてもよく理解できたと答えているものが多かった。必要性は理解しているが予習、復習への動機づけについて、もう少し課題や教材の工夫が必要であると思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学習の範囲が広く、学生個々の学習到達度は、差が大きいことを感じた。よく学習しているものは筆記試験で目標に到達できたが、筆記試験で到達できなかった学生に対し、補講と課題レポートを出し、全員が単位修得した。

4 授業改善の方法

視聴覚的な教材を示すと興味関心が高まる傾向があったので、講義、演習の中に視聴覚教材をもう少し多く取り入れながら、更に理解度が深まるよう工夫していきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 中島 順子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 障害児保育 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53211ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 69名 **回答者数** : 63名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	63	-	-	-	-	-	62	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.57		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 1.6%	60分 程度 1.6%	30分 程度 7.9%	ほとんど していない 88.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 1.6%	30分 程度 12.7%	ほとんど していない 85.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.89		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 4.8%	やや 高かった 22.2%	適切 であった 71.4%	やや 低かった 1.6%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.70		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 9.5%	注意 していた 36.5%	ある程度 注意 していた 46.0%	あまり 注意し てい なかつ た 7.9%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.62		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.73		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.97		■				

1 授業の概要、特徴等

1, 障害児保育を支える理念や歴史の変遷から現状について理解する 2, 様々な障害について理解する 3, 個々の発達を促すかわりとはなにかを学ぶ 4, 具体的な援助の方法、環境構成、連携等について学び、理解する 毎回の資料や教科書の補足、ビデオ・写真など工夫しながら授業を進めました。

2 アンケート結果に対する見解

佐保短期大学での2回目の授業でした。授業の進め方は昨年度より内容を出来るだけ簡単、内容も少なく伝えるように工夫しました。毎回授業は名簿順で授業を受けてもらいました。態度に問題のある学生はある程度把握していました。しかし、板書する時間に時間がかかる、話をすると寝る、ビデオも専門的などのビデオよりテレビで放映されたものに関心を示すなど、また、パワーポイントの大きさ等、学生を理解する上で驚くこともありました。何度注意しても携帯をいじるなど、どこまで注意するのか考えました。また、学生の熱意がやはり気になりました。授業を積極的に受けている、又、真面目に取り組んでいる学生と、そうでない学生の態度の差に悩まされました。授業の理解度の差もあり、授業態度は良くても理解できていない学生もいました。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度：講義・演習時の姿勢・コミュニケーション力 (15%) 筆記試験 (70%) 中間・総括2回 出席・確認課題提出 (15%)

4 授業改善の方法

- ① ビデオの内容 ② パワーポイントの大きさ、文字の大きさの工夫

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 園部 勝章 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 生活 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55200a **授業形態** : 講義 **受講者数** : 33名 **回答者数** : 28名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	-	28	-	-	-	-	-	26	-	-	2

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均						
		1	2	3	4	5				
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.54	■ ◆						
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度	60分程度 30分程度	ほとんどしていない	無回答				
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度	60分程度 30分程度	ほとんどしていない	無回答				
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.93	■ ◆						
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった やや高かった	適切であった やや低かった	非常に低かった	無回答				
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.14	■ ◆						
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり注意していなかった	注意する必要はなかった 注意していた	ある程度注意していた	あまり注意していなかった	全く注意していなかった	無回答			
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.86	■ ◆						
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.68	■ ◆						
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.93	■ ◆						

1 授業の概要、特徴等

小学校低学年「生活科」の内容にかかわる授業である。学びの内容は、子どもたちが生活している場での自然と社会にかかわることである。COSでは、目標を「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかわりに関心をもち、・・・」と書かれている。授業は自然や社会にかかわる、「家庭と生活」「地域と生活」「公共物・公共施設」「自然との関わり」「身近なモノを使って遊ぶ」「動植物を観察する」「表現する方法」について学んでいった。そして、奈良公園と奈良まちでの自然や社会にかかわることについて、グループをつくって調べ、まとめ、発表の時間を設けた。毎時間、自然とのふれあいのひとつとして、3種類の草花の紹介、2回の星空紹介を行った。そして、学生の出席確認と理解の様子を把握することもかね、200字以上の感想提出を求めた。

2 アンケート結果に対する見解

自由記述での「来ている人をきちんとチェックしてください。」とあるようにまた、「あさがお新聞」作成のよさや奈良公園・奈良まちについての調べ、まとめ、発表のよさ、毎時間の感想を読んで、学生が主体的に学ぼうとしている姿を毎時間感じていた。①の「私語をしない」ということで、学びの深さを学びの姿勢だけでしたくないと考え、厳しく注意をせずに、学生の机に近づいて授業をした。その姿をころよく思っていない学生もいた。私の授業について、「出席確認をかねて感想を書くことを大切にしたい。」ことも話すことが必要であった反省をしている。また、⑨「関心が高く」⑩「将来に役立つ」で、学生に、5歳から7歳くらいの子どもの自然や社会にかかわる認識について深く学ぶことを十分伝えることができなかつたのかと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標：生活科の活動内容に関わる活動や体験的研究を通して、生活科の指導や教材研究に必要な基礎的知識、技能を習得することで、全体を観察し、真理を見極める科学的者を養うとともに、教師に求められる知識、技能を理解し、幼稚園から小学校までの教育を視野に入れた広い視点をもった教員をめざす。
 成績評価基準：定期試験60%、探索活動(奈良公園・奈良まち)10%、授業の感想(200字以上)10%、出席20% 単位認定：60点以上に単位を認定

4 授業改善の方法

「生活」授業の到達目標について学生と確認：小学校低学年での生活科の内容を、学習指導要領や小学校低学年の教育に関する調査研究協力者会議報告(1986年)、中教審初等・中等教育課程部会の審議のまとめ(2017年)などの資料を読みとりながら、生活科教科書及び指導書を紹介した。それらを読み取ることで、小学校低学年での自然や社会にかかわる学びを理解しようとした。これらの資料の意味をわかってもらう工夫が必要であると考え。事前・事後学習や課題：事前の学習として、プリントにした、小学校低学年の教育に関する調査研究協力者会議報告(1986年)、中教審初等・中等教育課程部会の審議のまとめ(2017年)などの資料を事前に配布し、自分の考えをまとめるとりくみをすればよかつたと感じる。授業で扱うプリントで事前に配布し、学生の学習課題にできるようにしていきたい。プリント：授業で扱うプリントをできるだけ早く学生に配布したり、わかりやすい資料にしていきたい。勉強しやすい環境づくり：生活の授業は、保育を担当する保育者として、目の前の子どもたちが小学校低学年での自然や社会にかかわる学びを知っておくことであることを確認し、何のために学ぶ授業であるかを共通理解していきたい。そして、私語などは、他人への迷惑になることを学生同士でも自覚できるようにしていきたい。評価・評定：「成績評価基準：定期試験60%、探索活動(奈良公園・奈良まち)10%、授業の感想(200字以上)10%、出席20%」という基準を学生に早くにわかってもらってあげばよかつたのではと反省をしています。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 村田 トオル 職名 : 准教授 所属 : 地域こども学科
 科目名称 : 体育 科目群 : 地域こども学科 専門教育科目
 授業コード : 55600abc 授業形態 : 演習 受講者数 : 70名 回答者数 : 67名

回答者 内訳	学 年				学 科・コ ー ス						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	66	-	-	1	-	-	-	66	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.58		◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 4.5%	90分程度 -	60分程度 3.0%	30分程度 6.0%	ほとんど していない 86.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分以上 4.5%	90分程度 -	60分程度 3.0%	30分程度 6.0%	ほとんど していない 86.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	2	4.07		◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 7.5%	やや 高かった 13.4%	適切 であった 77.6%	やや 低かった 1.5%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.78		◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 40.3%	注意 していた 44.8%	ある程度 注意 していた 11.9%	あまり 注意して いなかった 3.0%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.70		◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.40		◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.57		◇				

1 授業の概要、特徴等

2 アンケート結果に対する見解

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 安永 龍子 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(健康) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53100ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 66名 **回答者数** : 53名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	1	52	-	-	-	-	-	53	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	3	3.66						
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 1.9%	90分 程度 -	60分 程度 3.8%	30分 程度 13.2%	ほとんど していない	81.1%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.9%	90分 程度 -	60分 程度 1.9%	30分 程度 13.2%	ほとんど していない	83.0%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.75						
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 24.5%	適切 であった 71.7%	やや 低かった -	非常に 低かった 1.9%	無回答 1.9%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.60						
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 3.8%	注意 していた 49.1%	ある程度 注意 していた 37.7%	あまり 注意して いなかった 5.7%	全く 注意して いなかった 1.9%	無回答 1.9%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.56						
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.60						
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.83						

1 授業の概要、特徴等

領域「健康」のねらいと内容を理解し、保育者として子どもの健康を促す活動を学習する。そのために、まずは自分自身の健康を考へることが大事であり、運動や食事などの生活習慣について考へられるように国民健康づくり運動(健康日本21(第2次)等)を学習する。そして、自分の健康維持のためには生活習慣の改善が重要だと考へることができるようにする。

2 アンケート結果に対する見解

受講態度として、事前・事後学習時間が平均よりかなり少ない。ほとんどしていない学生が80%にも及んでいる。学習の進め方、課題の提示の仕方を検討していかなければならない結果であった。授業のねらいや目的が良く理解できたかの問いに対して、「ある程度思う」と「そう思う」が約48%くらいであり、半数は理解できていないということでもある。また、自由記述においても、興味を引く内容がなかったという手厳しい記述もあり、授業内容を検討し、ねらい・目的が十分理解できるように内容の検討が必要である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

受講生は66名であったが、欠席で単位認定できない学生が5名いた。成績評価は、中間に小テストと最終に筆記試験を行った結果に、受講態度を加味して評価した。再試験者は23名であり、欠席者が3名、単位認定できなかったものが3名であった。

4 授業改善の方法

・事前・事後学習を行うように課題の提出をもとめ、授業を展開していく。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 石田 裕子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(人間関係) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53110abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 75名 **回答者数** : 69名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	65	4	-	-	-	-	-	65	-	-	4

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.90		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 1.4%	60分 程度 1.4%	30分 程度 21.7%	ほとんど していない 75.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 2.9%	60分 程度 1.4%	30分 程度 24.6%	ほとんど していない 71.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.43		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 4.3%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 62.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.38		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 5.8%	注意 していた 65.2%	ある程度 注意 していた 29.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.18		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.28		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.71		■				

1 授業の概要、特徴等

保育内容 領域人間関係について学ぶことを目的としている。この授業では保育において子どもの人間関係を育むにはどのような必要があるか、保育所保育指針や幼稚園教育要領をもとに学ぶ。また学生同士のグループワークやディスカッションを取り入れることにより、意見を述べ、他者の意見と取り入れる等の機会を増やし、学生自身の人間関係に関する力を伸ばすことを目的とした。またテスト問題を学生に作成させ、採用するという試みを行った。

2 アンケート結果に対する見解

自由記述では今年度特に力を入れたグループディスカッションに対する意見を求めた。おおむね満足度が高いようであった。また、選択設問「テスト問題を作成したことは授業の内容の復習に役立ったか」ではそう思う、ある程度思うを合計すると約90%になる。今後も取り入れていきたい方法である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

1. 社会の変化を踏まえながら、子どもの発達と保育内容領域「人間関係」が示す内容について説明することができる 2自らの人間関係を考えることができる 3人と関わる力を育てる保育者の役割について考える 筆記試験:確認テスト含む (50%) ミニツペーパー (25%) 受講態度 (25%)

4 授業改善の方法

事前事後学習をある程度課したつもりであるが、ほとんどしていないが両項目とも70%以上に上る。今後は事前事後学習をするためレポート課題等を課すことを検討する。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53141bb・cf **授業形態** : 演習 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	6	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.33		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 50.0%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 16.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 16.7%	60分 程度 33.3%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 低かった	非常に 高かった -	やや 高かった 33.3%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.50		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.50		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	5.00		■				

1 授業の概要、特徴等

1年次で身に付けた ピアノ技術 正しく歌う力 和音をつかった伴奏の知識を使って実際の歌の弾き歌いを練習する 歌唱指導を実際に模擬体験し ディスカッションを行い お互いの問題点 改善点 良かった点を話し合い 意識を高め取り組み姿勢につなげていく

2 アンケート結果に対する見解

概ね企図したことが反映された結果が得られた。歌唱指導を体験することで やらされ感が軽減し 自発的に工夫し弾き歌いに対する姿勢が変わった。しっかり歌う必要を実感出来て取り組みに真剣さが加わり 全体の授業の底上げが出来たように思う。又

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

歌唱指導を体験することで しっかりと歌い ピアノを弾くことの大切さを認識 子供たちの前で頑張ってやっていきたいという意識が高まった。簡単な曲ではしっかり反映できた学生が多かった。しかし難しい曲ではお手上げで 何曲かある難しい課題では 手取り足とりでやっとのことでクリアした学生が多く見られた。試験では 例年よりしっかり余裕をもって弾き歌い出来た学生が多かった(簡単な曲を選んだため?)

4 授業改善の方法

試験曲について 出来栄を重視すると冒険をさけ 簡単に弾ける曲を選んでしまう。レベルの高い曲にトライして ミスのため点数が伸びない学生と 簡単な曲をしっかり演奏した学生の採点 試験曲を選ぶ時に苦慮する点です。学生のレベルのグレードで音楽1~4のように成績に配慮があると 試験に難しい曲にもトライさせやすいかなと思います

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 本間 晶子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・音楽) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53141af・bd・cc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 10名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	9	-	-	-	-	-	9	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.11		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 -	90分程度 33.3%	60分程度 44.4%	30分程度 22.2%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 -	90分程度 33.3%	60分程度 22.2%	30分程度 33.3%	ほとんど していない 11.1%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 22.2%	やや 高かった 22.2%	適切 であった 55.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業の 進め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.25		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 33.3%	注意 していた 22.2%	ある程度 注意 していた 44.4%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.00		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.11		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.67		■				

1 授業の概要、特徴等

個人レッスンとグループ学習で構成される。個人レッスンでは、リズム表現のためのピアノ曲と、「子供のうた」の弾き歌いを学習する。「子供のうた」はカデンツを応用し、伴奏つき弾き歌いを暗譜演奏で完成させてゆく。グループ学習では、発声練習の他、課題の和声や指使いを確認する。また、歌の指導法についても学び、模擬授業も行う。ピアノ実技にかなりの個人差があるが、個人レッスンでかなりきめ細やかな指導が可能である。

2 アンケート結果に対する見解

実技教科であり、授業を受ける前後の課題への取り組み、つまり練習が非常に大切であるにもかかわらず、「受講態度」の取り組み時間の回答が、少々物足りない。自分で満足のいく十分な練習はしなかった、という自覚の表れとみれば、希望が持てるが、根気強い指導を心掛けたい。授業の性格上、当然といえば当然だが、ほぼ100%の学生が「この授業は自分の将来に役立つ」と感じており、やり甲斐をひしひしと感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

カデンツを応用して、「子供のうた」を10曲以上暗譜で弾き歌いできること、さらにリズム表現のためのピアノ指定曲を2曲演奏できることが、授業の目標達成には必要である。12曲合格を前提に、実技試験点、平常点などを合計して成績評価基準とし、単位が認定される。

4 授業改善の方法

個人差はあるが、課題曲数はだいたいゆとりをもって指導できる範囲内であったと思われる。ただ、学生に真の実力として、弾き歌い力を身につけさせる為には、反復練習が必須である。最後の実技試験の曲を自由曲1曲にせず、複数曲指示しておいて、レパートリーとして複数曲を常時弾ける体制を作ることも一考かと思われる。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 小木曾 真司 **職名** : 助教 **所属** : 専攻科
科目名称 : 介護に必要な制度と理解 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7200 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	4	-	-	-	-	-	4	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.50		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 25.0%	30分 程度 -	ほとんど していない 75.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 25.0%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.75		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 50.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.50		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 25.0%	注意 していた 25.0%	ある程度 注意 していた 50.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.75		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.25		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.50		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

介護福祉士養成課程において、介護を学ぶ基盤として、制度や施策についての基礎的知識の理解を目的とする。主に社会保障について、高齢者のみならず、さまざまな障害を持たれた方にも視点をおいた授業を展開し、現場の経験も織り交ぜながら、幅広く対応できる介護専門職としての学びを意識した。

2 アンケート結果に対する見解

授業時間内における評価は学生教員ともにおおむね一致しているが、予習・復習に関してはほとんどしていない者が過半数を占めている点は注視しなければならない。予習による学習の動機づけと、復習による確認が、知識化する上で重要な点であることを考えれば改善の余地が大きいと考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

確認テスト等を単元ごとに実施し、それを一つ一つ共有しながら解説したため、基礎的な知識の定着に寄与したと考えられる。実際の介護の現場でも制度の理解をもって問題視する視点は養われたのではないかと感じる。成績評価基準及び単位認定に関しては、科目担当責任者でないため解答は控える。

4 授業改善の方法

2の回答したように、予習・復習方法の見直しを改善し、確認テスト等を併用することで、さらなる効率化が図れるのではないかと。ただ、学生自身、他教科の課題も重なり、心理的負担も大きいことから、課題の提示内容・方法も吟味したい。また、新聞記事やTVニュース等も活用しながら、自分のこととして考える動機づけも必要だと感じた。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 中村 妙子 **職名** : 教授 **所属** : 専攻科
科目名称 : 家事支援の技法 I・被服 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7270 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.60		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 20.0%	60分 程度 40.0%	30分 程度 -	ほとんど していない 40.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 20.0%	60分 程度 40.0%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 20.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.60		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 40.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	3	3.60		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 60.0%	ある程度 注意 していた 40.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.60		■ ◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.60		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.60		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

被服に関する基礎的知識や技術を修得し、被服に関する家事支援ができるように学ぶ。被服は、温度調節や社会的役割を考えて着ることを目的とするが、その被服を清潔に維持していくためには、洗濯や衛生管理が必要となる。また、女性は、飾ったり、手芸をする楽しみを持った方が多く、それらは生きがいに通じる。講義や演習、実習を混ぜながら、被服に関する家事支援を考えていく。

2 アンケート結果に対する見解

専攻科と生活福祉コース(2回生)とで評価に差があった。専攻科の方が厳しい評価となったが、モチベーションとしては、専攻科の方が高く、その分評価が厳しくなったと考えられる。事前、事後学習に時間を割いているには驚きがある。宿題等は、ほとんど出していないので、何に事前・事後学習をしたのか、理解ができないでいる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

総合評価の値が3.58~3.85であり、目的が十分に達せられたとは言えない。家事支援ができる知識・技術が修得できたかが、成績評価基準となるが、全員、単位認定することができた。

4 授業改善の方法

家事支援という日常的なことに、自分はやっている、できるという意識の中で、どのようにして興味を持ってもらうかを考える必要がある。演習を行いながら知識を深めようとしているが、学生には伝わっていないようであるので、知識の修得にさらなる工夫が必要である。講義、演習、実習のバランスを考えていく。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 松岡 美穂子 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : コミュニケーションの基本 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7235 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.20		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 20.0%	30分 程度 -	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 20.0%	30分 程度 -	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 20.0%	適切 であった 80.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.20		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 20.0%	注意 していた 60.0%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.20		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.20		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.20		■				

1 授業の概要、特徴等

コミュニケーションの基本として「自己覚知」では自己紹介の中で言葉だけでなく何を伝えるのか また聴く側は言葉だけを聴くのではなく、伝えようとする言葉の意味を知ることがを演習と共に学ぶ。ワンワードのセッションでは仲間を信じて助けてもらえる関係を知り、パーソンセンタードケアを用いて認知症を持つ人の理解とコミュニケーション技法などグループワークを中心として実践できるコミュニケーション技術とした。

2 アンケート結果に対する見解

学生への課題に関して、個々の特徴のあるプレゼンテーションの実施ができたり 積極的にグループワークにも参加しており自分の意見を表現する機会を設けたが 自己学習のテーマをもう少し提供してもよかったのでは?と考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

コミュニケーションの基本を理解したうえでコミュニケーションの技法を学び演習・グループワーク・プレゼンテーションで実践トレーニングし相手の立場になって考えて行動する介護職としての専門性を持って関わることができる。また情報共有のための記録・文章の作成技術・会議やミーティングの知識や技術を学ぶことができる。成績評価基準として課題の発表・コミュニケーションについて課題レポートとした。

4 授業改善の方法

5名の少人数クラスでの授業のため、学生参画型の授業としたが振り返りとして テーマについての発表を増やし、「伝える」「聴く」「感じたことを表現する」を学ぶチャンスを深めるように改善する。演習に関しては事例を用いてたくさんのパターンからトレーニングできるように構成し直す。振り返り確認テストの実施を検討する。

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 西本 房野 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 生活支援技術 I **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7245 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.80	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 - 90分 程度 -	60分 程度 20.0%	30分 程度 40.0%	ほとんど していない 40.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	-	120分 以上 - 90分 程度 -	60分 程度 40.0%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 40.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.00	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった - やや 高かった 40.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.60	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 20.0%	注意 していた 20.0%	ある程度 注意 していた 60.0%	あまり 注意し ていな かった -	全く 注意し ていな かった -	無回答 -
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.60	■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.80	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.60	■				

1 授業の概要、特徴等

介護支援技術の授業は、実際に利用者役、介護者役になり体位変換移動等体験し実感する事により、介護を行う人、介護を受ける人とそれぞれの立場にたって考える力を身につける事に重点をおいています。言葉かけ、関わる姿勢等、相手に対しての基本技術を学んでもらっている、介護技術は、基本が大切である為授業では、基本を学んで、実習で応用を学ぶ事になる。

2 アンケート結果に対する見解

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

しっかりと、基本技術を身につける事と、技術提供する際の根拠を自分自身で理解できる事を目標に掲げている。

4 授業改善の方法

支援技術の場合二人一組でベッドを使用しているが、今年においては、男子学生が一名という事で、ペアになることが不可能であり利用者役にて学ぶ事が出来にくい為、今後男子一名の場合検討の必要があると思う。人数が少なければ、技術の内容によっては、生活福祉の学生と一緒に受講しても良いのでは。(男子1名ならば)

教員による授業アンケート (2014年度 前期)

教員名 : 遠藤 光子 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 生活レクリエーション **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7230 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 20.0%	30分 程度 -	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 20.0%	30分 程度 -	ほとんど していない 80.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.40		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 20.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった 20.0%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	2.60		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 40.0%	ある程度 注意 していた 20.0%	あまり 注意して いなかった 20.0%	全く 注意して いなかった 20.0%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	2.60		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.60		■				

1 授業の概要、特徴等

短期間で実習施設でのレクリエーション(以後レク)を企画提供することとなる為、理論学習とレク体験を同時に進めた。やって見せて楽しさを感じてもらい、実施できるよう手法等を説明すると共に福祉レクの目的・意義の説明を行った。授業時にミニレポートを書いてもらい理解度を探り、必要時説明と実施を繰り返した。生きる意欲にまで繋げていけるレクの奥深さを解ってもらいたく教員の体験した事例の話もした。

2 アンケート結果に対する見解

消化不良となることを避けながらも、多くの種類、より高度なレクにも挑戦して貰いたくあわただしい思いをさせたように思う。例えばレク財作成時には、時間のリミットを伝え、同時進行させ、一回の説明で全員が同時に理解できるすっきりした授業にしたい。授業前後に多くの学生が個別に質問に来てくれたのでそれは今後も大切にしていきたい。席替えを希望した学生の思いをもっと真摯に受け止め、その思いの解決を全体で考えていけるようにしたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業案に挙げた、学生に学んで貰いたい内容はほぼ伝えられたと考える。施設での各季節各場面でのレクをこなしていけるのではないかと。教科書等持ち込み可のテストで、理論も含め、レクとは・与える影響・果たす役目等につき記入してもらった。実施し、説明したことをほぼ漏らさず書けた学生が何名かいた。大切な部分は何度も伝えてあるので、もう少し書いてほしかった学生もいた。問題を再記入提出してもらおうことで評価基準をクリアできた。

4 授業改善の方法

授業で多くのレクを体験してもらい、卒業後も思い出して役に立ててもらいたいが、詳しい説明ができないものがでてくると思うので、幾つかの基本的なものをしっかり解ってもらおうことで、他のレクを行う時にも応用がきくようにしたい。理論の部分も解りやすく簡潔に押さえて指導していく。もっと学びたい学生にも対応できるよう資料等で示していく。レク指導の奥深さを実施、経験しながら身につけていってほしい。

